

### 三 満州国財政関係

昭和7年1月16日 中谷(政二)関東厅警務局長より  
永井外務次官他宛

#### 滿州幣制改革に関する金融機関側意見について

關機高第三八〇號ノ二

(1月21日接受)

昭和七年一月十六日

關東廳警務局長

拓務次官殿

外務次官殿

内閣書記官長殿

#### 滿洲幣制改革問題二對スル金融業者ノ意見

(満鐵情報)

滿洲幣制改革問題ニ關シ奉天ニ於ケル各金融業者側(正金、朝鮮、滿洲、正隆各銀行)ノ意見ヲ綜合スルニ大要左ノ如シ  
(一)滿洲ニ於ケル各貿易諸國ノ七割迄ハ金貨國ナルカ爲メ或ハ我國カ金貨國ナル故ヲ以テ早急ニ滿洲ノ幣制ヲ改革シテ  
金本位制度ヲ採用セントスルハ滿洲ノ弊制ヲ危キニ導クモ

ノテアル即チ滿洲ニハ、三十年以來支那人ノ民習及商習慣  
カアル之ヲ基調トセサル幣制改革ハ角ヲ矯メテ牛ヲ殺スモ  
ノテアル故ニ本問題ハ當面ノ問題トシテ手ヲ付ケルコトハ  
非常ナル危險テアル

(二)本問題ノ解決ハ不急ノ問題ニシテ決シテ政治的ニ解決ス  
ヘキモノニアラス、即前述ノ如ク當地方ハ從來銀ヲ保有ス  
ル爲政者ニ依リテ統治セラレ又一般民衆ハ之ヲ使フコトヲ  
習慣ツケラレタル今日急激ニ爲政者カ變リテ金本位制ヲ採  
用スルコトハ甚タ危険ヲ伴フヲ以テ現在ニ於テハ從來彼等  
ノ習慣ツケラレタル銀本位制度ヲ保守シ其ノ缺陷ヲ補フヘ  
ク努力スヘクシテ危進的ニ本制度ヲ改革スルコトハ日本人  
ノ性格ヲ遺憾ナク發揮シタルモノニシテ恰モ病人ニ毒薬ヲ  
注射シテ死期ヲ早カラシムルモノテアル、故ニ本問題ハ將  
來日支關係カ今後如何ニナルカヲ見極メタル後ニ於テ解決  
セラルヘキ問題ニシテ決シテ政治的ニ解決セラルヘキモノ  
ニテラスシテ當地方ノ經濟的ニ改革ノ必要自然的ニ喚起シ

タル時ニ始メテ解決セラルヘキモノテアル

(三)本問題ヲ解決スルニ先タチテ支那人ヲシテ金貨ノ信用ヲ  
高メルト同時ニ金貨ヲ使用スルコトカ利使ナルコトヲ知悉  
セシムルコトニ努力スルコト、日露戰前ニ於ケル露國ノ留  
紙幣カ南北滿洲ヲ風靡シ恰モ留金貨同様ニ融通力ヲ有シタ  
ル如ク支那人ヲシテ知ラスノ内ニ之カ信用ヲ得セシ  
メルト同時ニ之カ使用スルコトカ彼等ノ利使テアルコトニ  
仕向スル様ニ努力スル必要カアル即チ理論ト實際ト相俟テ  
幣制改革ノ有難味ヲ知ラシメタル時ニ本制度ヲ改革スル必  
要アリ

以上

对中国債權者組合より外務大臣宛請願書送付  
について

奉天省 2月9日後着  
第二〇七號

往電一〇九號ニ關シ

奉天省政府ヨリ二月二日附公文ヲ以テ舊遼寧省政府所屬各  
機關及舊軍事機關ノ事件前ニ於ケル内外商人ニ對スル債務  
整理ノ爲今般奉天積缺商款整理委員會ヲ組織シタルニ付外  
國人債權者ハ當該國公使經由向フ三ヶ月以内ニ證據書類添  
付請求書提出方各國領事宛申越セリ

(公文譯郵送濟)

公使、北平、吉林、哈爾賓、長春、鐵嶺、遼陽、安東、牛  
莊へ轉電セリ

#### 旧東北政権の債務整理に關し奉天省政府の續

欠商款整理委員会組織について

付記 二月二十九日付内田(勝司)東亞興業株式会社

常務取締役より守島(伍郎)至細至局第一課長

宛外信第三六号

231 昭和7年2月(9)日 在奉天森島總領事代理より  
芳沢外務大臣宛(電報)

(付記) (2月29日接受)

東亞興業株式會社

常務取締役 内田 勝司（印）

外務省亞細亞局

守島第一課長殿

拜啓過日電話ニテ得貴意候通り對支債權者組合ニ於テ外務大臣ニ親敷請願ノ次第有之幹事打揃ヒ拜芝仕度大臣ノ御都合伺出中ニ候得共御繁劇ノ爲未タ御引見ニ預カルヲ得ス候處請願事項ハ此際至急貴官及谷亞細亞局長ノ御配慮ヲ煩ハシ度キ事柄ニ候間便宜別紙芳澤外務大臣宛組合員連署請願書寫御一覽ニ供シ候ニ付臨機格別ノ御詮議相煩ハシ度此段御願申上候 敬具

（別 紙）

今次滿洲事變ノ突發以來ハ政府御當局格別ノ御配慮ニヨル支那債務整理問題モ中絶ノ姿ト相成リ當組合各社ノ債權取立ニ關スル個別直接交渉モ全ク其便宜ヲ失ヒ組合各社何レモ困難在候次第ハ茲ニ縷述ヲ須ヒスシテ御諒察ヲ得候儀ト愚考仕候

然ルニ今ヤ滿洲事變モ軍事行動一段落ヲ告ケ東四省ニ新政權確立ノ機運相熟シ候趣又國際聯盟ノ支那調査委員ハ既ニ

任命ヲ終リ近ク其來東ヲ見ルニ至ルヘキ趣更ニ又滿洲事變ニ關シ日支交渉ヲ行ハル、場合ハ爾餘ノ日支懸案ノ解決ヲモ期セラルヘキ趣等夫々聞及ヒ候ニ付テハ我對支債權ニ關シ根本的解決方法ヲ講スルノ機モ相近ツキ候ヤニ愚考セラレ候

因テ此程組合各社協議ヲ凝ラシ種々研究相重ネ候得共本件ハ國際問題トシテ政府御當局ノ御配慮ヲ仰クノ外適當ノ方法モ無之様存セラレ候ニ付此際左記ニ關シ臨機御措置相仰キ候様致度一同希望仕候

一、東四省新政權確立ノ場合ハ該政權ヲシテ支那國債ノ一部ヲ分擔セシメ其ノ整理ニ要スル相當ノ資金ヲ將來其關稅及鹽稅收入中ヨリ繼續醸出セシムル様交渉セラレ度キコト

二、聯盟支那調査委員來東ノ場合ハ支那ノ債務不履行ノ事實ヲ説明シ之ヲ調査事項ノ一項目トシテ取扱ハシコトヲ請求セラレ度キコト

三、滿洲事件及日支懸案解決ニ關シ交渉ノ場合ハ支那政府ヲシテ債務整理案ヲ確定セシムル様御盡力相仰キ度キコト就テハ右各項其他適當ノ方策ニ付宜敷御詮議被成下度尙組

合自体ノ採ルヘキ措置ニ關シ隨時何分ノ御指令相仰キ度此段奉請願候

昭和七年二月 日

株式 會社 日本興業銀行

總

裁

結城 豊太郎

株式 横濱正金銀行

副

頭 取

武内 金平

株式 東京市日本橋區本町貳丁目壹番地四

總

裁

東京市日本橋區本町貳丁目壹番地四

株式 三井物産株式會社

副

頭 取

三井 守之助

株式 代表取締役社長 東京市麹町區丸ノ内貳丁目四番地

總

裁

東京市麹町區丸ノ内貳丁目四番地

株式 三菱商事株式會社

副

頭 取

高木 陸郎

株式 中日實業株式會社

副

頭 取

門野 重九郎

株式 合名會社大倉組

副

頭 取

安田 銀行

株式 會社 株式 三井銀行

副

頭 取

高木 健吾

株式 會社 株式 三井銀行

副

頭 取

島田 茂

株式 會社 株式 三井銀行

副

頭 取

島田 善次郎

株式 會社 株式 三井銀行

副

頭 取

東京市日本橋區駿河町壹番地

總

裁

東京市日本橋區駿河町壹番地

總

裁

271

代表取締役社長 三井源右衛門

泰平組合理事

大熊篤太郎

當口関稅收入の官銀号引渡しに關し半額は横  
浜正金銀行保管を至当とする旨意見具申

當口 3月26日後發  
本省 3月27日前着

中華匯業銀行

東亞通商株式會社

常務取締役 藤崎彥三郎

東京市麹町區丸ノ内二丁目六番地

古河電氣工業株式會社

社長 中川末吉

東京市日本橋區通二丁目一番地八

住友合資會社東京支店

支店長 矢島富造

東亞興業株式會社

取締役會長 門野重九郎

常務取締役 内田勝司

外務大臣

芳澤謙吉殿

232 昭和7年3月26日

在牛莊荒川領事より  
芳澤外務大臣宛(電報)

233 昭和7年3月27日

在奉天森島總領事代理より  
芳澤外務大臣宛(電報)

正金銀行營口支店の稅收半額保管は困難な立  
場に陥るおそれがあり官銀号全額保管とすべ  
き旨意見具申

奉天 3月27日後發

本省 3月28日前着

第四六八號

本官發長春宛電報

第一五號

牛莊發貴官宛電報第一號ニ關シ

元來海關收入ヲ官銀號ニ納入セントスルハ同行特殊ノ立場  
ニ鑑ミ總稅務司又ハ稅關長ノ銀行ニ對スル指圖ヲ拒否セン

トノ趣旨ニ出ツルモノナル處日本側銀行ハ官銀號ト其ノ立  
場ヲ異ニセル結果總稅務司ト満洲國トノ間ノ話合成立前ニ  
於テハ右兩者間ノ紛糾ノ渦中ニ捲込マル虞大ナルモノア  
リ而カモ右ノ場合ニハ本邦銀行トシテハ從來ノ關係並ニ日  
本ノ満洲國ニ對スル立場上總稅務司乃至稅關長ノ指圖ヲ拒  
否シ得サルコトアルヘシト思考セラル依テ牛莊領事ヨリ電

三 滿州國財政關係

滿洲國中央銀行設立問題ハ目下長春ニ臨時滿洲中央銀行籌  
備處ヲ設置シ東三省官號總辨吳恩培主トナリ吉林永衡官銀  
號總辨、黑龍江官銀號總辨其他邦人顧問諮詢等ニ於テ開業

第一號 合第一四號  
本官發長春宛電報

大臣宛貴電第八九號後段ニ關シ

昨二十五日新政府財政總長ヨリ當地稅關監督公署顧問ニ對  
シ既納並ニ二十六日以後收納ノ關稅ハ凡テ中國銀行ヨリ官  
銀號ニ引渡サシムル様訓令アリタル趣ナル處從來當地ニ於  
ケル關稅保管銀行ハ中國及正金ノ二行ニシテ中國銀行ノ收  
納セル稅收ノ半額ハ正金ニ預金セラレ來リタル次第ナルニ  
付將來ニ於テモ中國銀行ヨリ引渡サレタル稅收ハ折半シテ  
官銀號及正金ノ二行ニ保管セシムルヲ至當ト存セラルルヲ  
以テ此ノ點關係當局ニ御説明ノ上半額ヲ正金ニ預金セシム  
ル様訓令方御配慮アリタシ

大臣、奉天、哈爾賓へ轉電セリ

234 昭和7年3月28日

林閔東寧警務局長より  
永井外務次官他宛

關機高支第四四七八號ノ二  
臨時滿洲中央銀行籌備處の設置について  
(4月1日接受)

昭和七年三月二十八日

關東廳警務局長

拓務次官殿

內閣書記官長殿

外務次官殿

內務省警保局長殿

滿洲中央銀行ノ開業準備

滿洲國中央銀行設立問題ハ目下長春ニ臨時滿洲中央銀行籌  
備處ヲ設置シ東三省官號總辨吳恩培主トナリ吉林永衡官銀  
號總辨、黑龍江官銀號總辨其他邦人顧問諮詢等ニ於テ開業

### 三 滿州国財政關係

ニ關スル具体案協議中ナルカ本中央銀行ハ各官銀號及邊業

銀行ヲ統一シ大体資本金ヲ三千萬元トスルコトニ決定セル

モ之等各銀行ノ現在所有現金什器等ヲ評價換算シテ資本金

トスルモ尙ホ不足スルヲ以テ不足分ハ日本側銀行團ヨリ借

款シテ之ニ充當スヘク計畫セラレ其額ハ目下ノ處判然セサ

ルモ大体約金七、八百萬圓見當ト見ラレ本件ノ交渉ハ過般

關東軍石原參謀上京ノ際銀行團ト折衝シ大体其ノ諒解ヲ得

タリト云フモ新國家承認問題モアリ急速ニ之力解決困難ト

思惟セラレ居レリ之力爲メ本中央銀行ノ開業ハ四月一日ノ

豫定ナリシモ到底開業ノ域ニ達セサルモノノ如ク本月十六

日ヨリ二十四日迄ノ間ニ一切ノ議決ヲ了シ遲クトモ四月十

五日前後ニハ開業スヘク準備中ナリ

而シテ中央銀行總裁トシテ恭親王又ハ吉林財政廳長榮厚等

ノ就任說アルモ結局財政部總長熙洽ノ兼任トナル模様ナ

リ、尙ホ中央銀行ハ開業ト同時ニ紙幣發行困難ナルヲ以テ

暫時東三省官銀號現大洋紙幣ヲ流用スルコトニ決定シ目下

番號總辨ノ氏名等ノ押捺ニ忙殺セラレツツアリ而シテ從來

奉天大南關大街路南東記印刷所ニ於テ未發行現大洋紙幣ニ

東三省官銀號力哈爾賓ニ於テ發行セル哈大洋ハ一律二回收

新聞掲載ヲ禁止ス

スル計畫ナリト云フ

以上

235 昭和7年4月14日 堀切(善次郎)拓務次官より  
外務次官 永井 松三殿

上海印刷大洋票の大連密送の情報について  
別紙

(4月14日接受)

昭和七年四月十四日

拓務次官 堀切 善次郎 [印]

(4月14日接受)

別紙關東長官發當省大臣宛電報寫御參考迄ニ及送付候也

外務次官 永井 松三殿

(別 紙)

昭和七年四月十三日午後七時五十分受

拓務大臣宛

關東長官

(高三五七)張學良ハ新國家金融攪亂ノ目的ヲ以テ東三省官

部關係者並ニ中央銀行設立委員長等ノ洩ス處ニヨレハ滿洲

國トシテハ準備現銀ノ國外流出ヲ防止スルタメ爲替管理ヲ

ナシ爲替統制ヲ圖ルヘク着々準備中ナリ尙現在既發各種貨幣相場カ思惑取引其他ノ一般農商民ノ不安懸念ヨリ相場ハ

漸落歩調ヲ辿リ變動甚シキモノアリ然レ共中央銀行開業ト

共ニ過去數年間ノ銀對既發紙幣ノ平均相場ヲ基準トシテ回

收兌換率限定額ヲ發表スル豫定ナルヲ以テ右發表ト共ニ思

惑取引及不安ハ一掃サレ流通舊紙幣ハ一定相場ニ依リ補助

貨幣トシテ流通シ漸次回収統一サルルニ至ルヘシ云々

以上

拓務次官 殿  
内閣書記官長 殿  
外務次官 殿  
内務省警保局長 殿

關機高支第六六三三號ノ二  
(5月5日接受)  
昭和七年四月三十日

關東廳警務局長

滿洲國中央銀行ノ爲替統制問題及舊紙幣市價維持策  
滿洲國中央銀行ハ五月初旬開業ノ豫定ヲ以テ準備ヲ進メ三

237 昭和7年5月13日 在長春田代領事より  
芳沢外務大臣宛

滿洲中央銀行の創立委員任命および設立計画

の内容について

機密公第二五九號

昭和七年五月十三日

在長春

領事 田代 重徳〔印〕

外務大臣 芳澤 謙吉殿  
滿洲國中央銀行ニ關スル件

滿洲國政府ニ於テハ從來ノ東三省官銀號及吉林永衡官銀號  
黑龍江官銀號邊業銀行營口官銀號等各省庫關係銀行ノ權利  
義務ヲ繼承シ國庫滿洲中央銀行ヲ創設セントシ三月十八日  
附ヲ以テ營口官銀號總辨劉燭棻ヲ委員長トスル創立委員會  
ヲ組織セシメ委員三東三省官銀號總辨吳恩培邊業銀行理事  
郭尙文黑龍江官銀號總理劉世忠、酒井輝馬(朝鮮銀行員)久  
富活(滿鐵社員)竹内德三郎(滿鐵社員)川上市松(正金銀行  
員)日岡惠二(朝鮮銀行員)ヲ委員長補佐員トシテ難波勝二  
(正金銀行員)ヲ任命シタルカ(委員長ノ實權ハ軍特務部財  
務課長五十嵐保司ニ在リ)組織內容ハ(一)資本金參千萬元  
官民出資各半額(政府ヨリ先ツ七百五十萬元ヲ出資)兌換準  
備金八千萬元第一回紙幣發行額二億萬元ニシテ業務開始後

漸次舊軍閥發行ノ紙幣ヲ同收シテ幣制統一ニ資セシム(二)本  
店ヲ新京長春ニ分店ヲ吉林奉天黑龍江各省省長公署所在地  
並ニ哈爾賓ニ(三)貨幣制度ハ一應銀本位トシ(紙幣ハ半元一  
元五元十元百元ノ五種トシ又補助貨ハ一錢銅貨五分一角銀  
貨ノ三種トス)適當ノ時期ニ至リ金本位ニ改メ(四)總裁一名  
副總裁一名理事八名以上ヲ置キ(五)東三省官銀號及吉、黑各  
銀號ノ經營ニ係ル附屬營業ハ一年後ニ於テ中央銀行ヨリ分  
離シテ夫々關係株式會社ヲ組織セシメ(六)其發行紙幣ハ天  
津、上海各地ニ於テ同地橫濱正金銀行發行ノ銀貨紙幣ト同  
格タラシム(七)行員ハ出來得ル限り各合併銀號員ヲ採用シ外  
ニ橫濱正金、鮮銀等日本側關係各銀行、關東廳、軍部方面  
ノ推薦者ヲ配置シ(八)總裁ニハ滿洲國人ヲ副總裁ニ日本人ヲ  
理事ニ日滿相當人物ヲ充ツルコトトナリ居レリ尙副總裁ト  
シテ既ニ本月六日元臺灣銀行理事山成喬六來任本店ヲ當地  
元吉林永衡官銀號ニ置クコトトナリ補修着々進捗シ近ク開  
店シ得ルコトトナリ居レリ

本件ニ關シ創立委員會責任者ノ語ル處ニ依レハ滿洲各銀行  
ノ發行紙幣額ハ一億三千萬元アリ同銀行條例並ニ紙幣發行  
ニ關スル條例ハ既ニ脱稿シ居ルモ殊ニ發行紙幣額ト兌換額

ノ發表ハ其時機ニ慎重ヲ加ヘサレハ影響大ナルヲ以テ未タ  
嚴密ニ之レヲ秘シツツアリ出來レハ右發表ハ開店ト同時ニ  
シタキ所存ナリ最初開業期ヲ五月一日ト内定シ次テ五月十  
五日トナリ居リタルモ準備整ハサル爲メ延期トナリタルカ

二十日迄ニハ愈開店スルニ至ルヘシ尙ホ總裁ニハ吉林省長  
兼財政部總長熙洽ノ呼聲高キモ一部ニハ總裁ハ專任タルヲ  
要スルカ故ニ熙洽ヲ以テ總裁タラシメムカ中央銀行トシテ

ノ活動ニ不便且ツ舊型ヲ完全ニ脱シ得サル困難ニ會スヘキ  
ヲ以テ等之レヲ避ケ度シトノ意見ヲ有スル向モアリテ適任  
者未夕現ハレス自然前清恭親王推戴說等傳ヘラルニ至リ  
タル次第ナリ又關東軍司令官ヨリハ出來得ル限り滿洲國人  
ヲシテ業務ヲ執ラシムル様希望アルモ日本人カ相當數參加  
セサレハ到底滿足ナルモノトナリ得サルヲ以テ多數日本人  
ヲ行員トスルニ至ルヘシ尙中央銀行業務開始ノ曉ハ各省財  
政廳長ハ單ニ稅收ヲ取扱フニ止マリ省收入ノ總デハ國庫中  
央銀行支店ヲ通シ中央ニ納送サルルコト並ニ外國爲替ニ於  
テ統一アル受渡ヲ爲シ得ルノ至便ヲ見ルモノナリトノコト  
ナリ

238 昭和7年5月14日 在牛莊荒川領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

稅務司から正金銀行營口支店への保管稅收の  
上海送金要請と同行の拒否回答について

當 営 口 5月14日後発  
本 省 5月15日前着

第六〇號

三 滿州國財政關係

本信寫付先 在華公使 北平 上海 天津 青島 南

當地關稅收入ノ半額正金銀行へ預入ノ件ニ關シテハ奉天發  
長春宛電報第一五號ノ次第モアルニ付單ニ正金ノ既得權利  
ヲ留保スルニ止メ小澤海關監督顧問及正金銀行ニ事情ヲ説  
明シ曩ニ正金銀行ノ預金高ヲ漸減セシメ其後ノ收入ハ總テ  
中國銀行ニ止メ置キ正金ヘ預入セシメサル様措置スル事ニ  
了解セシメタルカ小澤ハ右措置方ニ關シ屢々財政廳へ請訓  
セシ由ナルモ何等ノ同訓ニ接セス從來ノ通半額ハ正金ニ預  
入サレ五月ニ至リ現在高十七萬八千餘兩ニ達シ居ル趣ナル  
處稅務司ヨリ正金銀行ニ對シ昨十三日附ヲ以テ中國銀行ニ

於ケル稅收ノ上海送金ハ同行ヨリ拒絕セラレタルニ依リ貴行ニ預金シアル稅收ヲ上海中央銀行へ送金方取計アリ度キ旨申越アリタル趣ナリ

依テ本官ハ小澤及正金支店長ト協議ノ上本官ハ全ク本件ヲ關知セサル建前ニテ正金ヨリ口頭ニテ輕ク「滿洲國ノ勢力範圍ニテ營業スル關係上新政府ノ差止メヲ無視シ上海へ送

金スル事不可能ナリ」ト回答セシムル事トセリ尤モ江原帮辨ノ内話スル處ニ依レハ「アイ、ジー」ヨリハ海關ノ「イ

ンテグリチー」ヲ保持スル以上努メテ滿洲國トノ衝突ヲ避

ク可キ旨例示内訓越アリ

右ノ送金要求モ單ニ南京政府ヘノ申譯ニ正金ヨリ直接送金拒絶回答ヲ得ントスルニ外ナラストノ事ナリ乍併此ノ結果若シ南京政府ノ指令トシテ稅務司ヨリ本官ニ對シ正金ノ送金方交渉シ來ルカ如キ場合アラハ如何ニ回答シ然ル可キヤ御同訓ヲ請フ卑見トシテハ事實上ノ滿洲政府ト南京政府ノ要求ハ共ニ之ヲ無視シ得サル關係ニアルヲ理由トシテ正金ニ對シ兩政府ヘノ支拂ヲ共ニ停止スルヨリ外無カランカト存ス

支、奉天、長春、安東、哈爾賓、間島へ轉電セリ

239 昭和7年5月16日 在長春田代領事より

芳沢外務大臣宛(電報)

正金銀行當口支店の保管稅收問題に關し中國銀行への移管および稅收保管放棄を要望する

#### 滿州國側の意向について

長春 5月16日後發  
本省 5月17日前着

#### 第二四一號

牛莊發閣下宛電報第六〇號ニ關シ

阪谷、大橋兩司長ノ意見ヲ徵シタル處滿洲國トシテハ其權力下ニ在ル各地ノ稅關收入ヲ其ノ手ニ收メント努力シツタル現狀ヲ無視シテ正金ニ現存スル收入金ヲ上海ニ送金スル如キ事アル場合ハ已ムヲ得ス非常手段ニ出ツルノ覺悟アル事並ニ稅關問題ニ關シ早晚一般的對策ヲ決定スル用意アル事ヲ一應考慮ニ入レラレタク尙營口正金ハ大正九年ノ協定ニ依リ稅收ノ半額ヲ預入保管シ居ルモノニシテ送金ノ時ハ中國銀行ヲ通スル事トナリ居ルモノナルカ故ニ稅務司ヨリ直接正金ニ對シ上海へ送金方申出得ヘキ筋合ノモノニ非

#### 一、官帖相場ノ變動

斯從テ萬已ムヲ得サル場合ハ冒頭牛莊電報末段ノ通り兩政府ヘノ支拂ヲ停止スル事モ一方法ナランモ滿洲國側トシテハ正金ニ現存スル稅收金ヲ全部中國銀行ニ移管シ又今後正金ハ稅收ノ半額預金ヲ取扱ハサル様正金自身自發的ニ權利ヲ放棄シテ「トラブル」ヨリ離脱スル事ニ關係者ノ間ニ非公式話合ヲ遂ケラルレハ結構ナリトノ事ナリ御参考迄支、奉天、安東、牛莊、哈爾賓、間島へ轉電セリ

240 昭和7年5月16日

在長春田代領事より  
芳沢外務大臣宛

#### 吉林官帖相場の暴落について

(5月24日接受)

普通公第二六三號 昭和七年五月十六日

在長春

領事 田代 重徳(印)

外務大臣 芳澤 謙吉殿

官帖相場ノ暴落ニ關スル件

最近ニ於ケル吉林官帖ノ暴落ニ關シ左記ノ通報告申進ス  
記

當地方一般通貨タル吉林官帖ハ事變後ニ於ケル地方新政權筋ノ金融統制及銀價昂騰等ノ好材料並ニ客年末本邦金輸出再禁止ニ依ル金圓低落ノ影響モアリ旁一時相場著ルシク持直シノ觀アリシカ特產出廻期ニ於ケル官銀號筋ノ思惑買策動ニ端ヲ發シ亦々官帖相場ノ「バランス」破レ官憲筋モ之カ相場維持ニ腐心スル所アリシカ更ニ二月下旬滿洲國中央銀行設立計畫ニ關スル種々ノ憶說流布セラル、ニ及ヒ官帖相場ハ必スシモ銀價曲線ニ隨伴セス三月一日五百六十吊ヨリ漸落歩調ヲ辿リ三月三十一日七百二吊ト現レ四月二十九日更ニ八百吊台ヲ突破シ越ヘテ五月二日九百二吊トナリ五月四日遂ニ九百七十四吊ナル割期的安値ヲ現出シ市場混亂七日ヨリ間相場ニ陥リ十日漸ク八百八十八吊ト相場立チ市場再開シタルモ依然落調ヲ示シ先安ノ見込ナリ

#### 二、相場低落ノ原因

今回官帖相場暴落ノ原因ニ關スル諸説ヲ綜合スルニ  
(1)特產出廻期ヲ過キタル此頃官帖ハ例年需要關係ヨリ市場ニ「ダブ」付キ所謂季節的低落ヲナスモノナルカ官

銀號ハ其ノ際銀賣ニ依リ市場ノ官帖ヲ收約シ官帖相場

ヲ維持スル等ノ慣行ナリシモ本年ハ何等ノ調節的措置ヲ講セサリシノミナラス却テ鈔票買ノ舉ニ出テ官帖ノ氾濫ヲ増大セシメタルコト

(b) 满洲國中央銀行設立ニ伴ヒ新ニ現大洋票ヲ發行シ幣制ノ統一ヲ期セムトスル新政府ノ方針ハ官帖ノ存在理由ヲ薄弱ナラシムルカ如キ感ヲ與ヘ其前途ニ多大ノ暗影ヲ投シ官帖ノ人氣ヲ著ルシク低下セシメタルコト

官帖ノ如キ不換紙幣ニシテ專ラ一般ノ信用ニ依存スル通貨ニトリテ斯ノ如キ印象ハ全ク致命的ト云フヘシ

(c) 中央銀行ハ近キ將來其發行ニ係ル現大洋票ヲ以テ官帖ヲ回収スルノ必要ニ迫ラレタル處同行トシテハ官帖相場ノ最低率ニ於テ之ヲ斷行スルヲ得策トスヘキ次第ニシテ其ノ目的ノ下二人爲的ニ相場ノ低落ヲ計リツ、アリトノコト

之等ノ觀察ハ何ノ程度迄信憑シ得ヘキヤ疑問ナルモ兎ニ角官帖相場ノ將來ニハ悲觀的材料多ク旁此ノ際相場維持ノ有効適切ナル措置ヲ執ラサル限り一般ノ官帖賣ノ大勢如何トモ爲シ難キヤニ觀測セラル

ルコト等ノ意見有力ニ唱道セラレツ、アル處本件ハ新國家ノ幣制統一ト關聯シヲル爲當局ノ施措如何ハ極メテ重要ニシテ且興味アル問題ナリト思料ス

本信寫送付先 在華公使 奉天 吉林 哈爾賓 間島

昭和7年5月31日 在牛莊荒川領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

### 正金銀行當口支店保管稅收の中國銀行移管は稅務司の同意必要のため実行困難な事情について

當 口 5月31日後發  
本 省 6月1日前着

第六二號

貴電第一七號ニ關シ

新預金ハ正金ヘノ預入ヲ差止メ去ル十六日ヨリ全部中國銀行ニ保管セラレアル處正金ニ現存スル稅收ヲ中國銀行ニ移スニハ稅務司ヨリ小切手ヲ振出サシムル要アリ稅務司ハ之ヲ肯セサルヘケレハ右ハ非常手段ニ依ルヨリ外ナキカ正金トシテハ滿洲國側ノ非常引出ニ應スルハ面白カラサルヲ以テ正金ノ現存預金ヲ漸減セシムルニハ海關經費ヲ中國銀行

241 242 昭和7年6月1日 在奉天森島總領事代理より  
斎藤外務大臣宛(電報)

### 正金銀行當口支店の保管稅收問題は承認問題と一括解決が得策との意見具申

奉 天 6月1日後發  
本 省 6月1日後着

第八八五號

本官發長春宛電報第八九號

牛莊發大臣宛電報第六二號ニ關シ

先般阪谷司長來奉ノ際本官ヨリ正金ノ預金殘額ニ言及シ正金力海關收入ノ取扱ヲ中止スル以上現在ノ預金殘額ハ少額

### 三、相場維持ノ對策

最近城内交易所ニ於テ前記官帖相場ノ暴落ニ遭フヤ吉林財政廳ハ當地市商會ノ請願ヲ容レ爾今鈔票對官吊五百八十吊金票對官帖八百九十九吊哈大洋對官帖四百吊吉林大洋對官帖三百八十吊ノ公定相場ヲ示達シ此ノ限度ニ於テ取引スヘキ旨並ニ右違反行爲者ハ金融攪亂罪ヲ以テ論スヘキコトヲ發令シ交易所ニ命シ投棧取引ノ防止並ニ取締ニ任セシムル一方官銀號ヲシテ鈔票五萬圓ヲ賣出サシメ相場維持ヲ計リタル結果稍々好轉ノ模様アルモ素ヨリ官帖ノ前途ヲ約束シ得ル程度ニ達セサルコト勿論ナリ元來理想主義ヲ基調トスル新政權筋力金融問題ニ付舊政權ト全然同様ナル彈壓政策ヲ以テ臨ムノ極メテ拙劣ニシテ源ヲ治スル所以ナラサルコトニ對シテハ各方面共異論ナク亦相當非難ノ聲モアリ寧ロ此ノ際一般ノ官帖ニ對スル不安ヲ根本的ニ一掃スルノ趣旨ニ依リ即チ新政府ヨリ(一)新現大洋票ニ對スル「レーント」ノ決定(二)官帖ノ補助紙幣トシリテノ前途ノ保障(三)政府ノ金融統制ニ關スル根本政策ノ闡明及實施(四)新政權ノ財政難ヲ緩和スルノ方策ヲ講シ政府ノ信用ヲ高ムルコト(五)實際的ニ官帖ノ回収ニ着手實行ス

三 滿州国財政關係

ノ事ニモアリ正金ニ於テ之ヲ南京ニ送附セサル以上其ノ儘ニシ置キ將來承認問題等片附キタル折ニ一括解決スル方日

滿兩國ノ爲得策ナル可キ旨ヲ述ヘ了解ヲ求メ置キタルニ付適當ノ時期ニ貴官ヨリモ同様話合ヲ進メラルレハ好都合ト存ス

大臣、支、牛莊へ轉電セリ

~~~~~

243 昭和7年6月(7)日 在長春田中領事代理より  
斎藤外務大臣宛(電報)

貨幣法、中央銀行法等の滿州国國務會議通過について

第二八八號

七日駒井ハ新聞記者トノ定例會見ニ於テ貨幣法、中央銀行法、中央銀行組織辦法(客月十九日附第二八七號拙信參照)昨日ノ國務會議ヲ通過シタルヲ以テ參議府ニ詰リ兩三日中ニ公布セラルヘク同銀行ノ開業ハ本月十五日頃ノ見込ナル旨語レル由

レニ移ス意図ナリト述ヘ暗ニ右總裁說ヲ肯定セリ

尙全人ハ翌五日熙省長ニ隨伴赴京セルカ吉林永衡官銀號久富管理委員ノ談トシテ滿鐵側ヨリノ内報ニ依レハ中央銀行ハ本月二十日開業ノ豫定ニシテ總裁以下幹部ノ顔觸ハ略左ノ通り内定シ居ル趣ナリ

245 昭和7年6月15日 在吉林石射總領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

海關收入の滿州国以外への送金禁止について  
金銀行大連支店への財政部總長通達について

246 関東庁 6月15日後發 在吉林石射總領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

第三一號

往電第三〇號二關シ

滿洲國財政總長ヨリ昨日大連正金銀行支店長宛ニ「大連關ノ收入ハ本來滿洲國人民ノ負擔スル處ナルカ故ニ滿洲國ノ收入ニ歸スヘキモノナリ就テハ現在正金ニ保管中ノモノ及將來ノ海關收入ハ一切爾後財政總長ノ承認スル場合ノ外何人ノ命令ニ依ルモ滿洲國以外ノモノニ送附スヘカラス若シ之ニ違反スルニ於テハ滿洲國ニ對シ敵意アルモノト認メテ適當ニシテ且有效ナル方法ヲ採ルニ至ルヘキ」旨ノ公文ヲ送附シ來リ又福本稅關長ニ對シテモ更ニ右正金ニ對スルト

同様ノ趣旨並ニ今後海關收入ハ東三省官銀號ニ送附スヘキ奉天 哈爾賓 吉林、齊々哈爾へ轉電セリ

右報告ス  
本信寫送附先  
在華公使及北平  
奉天 哈爾賓 間島各總領事  
長春 齊々哈爾各領事

奉天、哈爾賓、吉林、齊々哈爾へ轉電セリ

244 昭和7年6月10日 在吉林石射總領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

榮厚の來吉および中央銀行幹部内定について

機密公第五〇四號 昭和七年六月十日 (6月21日接受)

在吉林 總領事 石射 猪太郎〔印〕  
外務大臣子爵 斎藤 實殿

在吉林

榮厚ノ來吉ト中央銀行幹部ノ顔觸内定ニ關スル件前吉林財政廳長榮厚ハ本月二日來吉シ日滿各機關主腦者ヲ歴訪久闊ヲ絞シツツアリシカ四日本官ヲ來訪シ自分ハ今後新國家ノ爲出來得ル限り微力ヲ致ス決心ナレハ諸事御指教ヲ得度シト述ヘタルニ付本官ヨリ全人ノ中央銀行總裁說ニ付訊シタル處榮ハ右ハ發表ヲ俟タサレハ果シテ實現スルヤ否ヤ不明ナリトテ明答ヲ避ケタルモ次テ自分ハ目下家族ヲ長春ニ住マハシメ居ルモ多忙ノ身トナレハ吉林ニモ家ヲ持タサレハ往復其他ニ不便ニ付家屋ヲ物色シ家族ノ一部ヲ之

283

旨申來リタル由ナリ  
支へ轉電セリ

246 昭和7年6月16日

在安東米沢領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

滿州国による中国・朝鮮両行支店への保管海

関税引渡し要求について

安東 6月16日後発  
本省 6月16日後着

第一二七號

當地海關監督ハ滿洲國ヨリノ命ニ依リ本十五日當地中國銀行及朝鮮銀行ニ對シ其保管ニ係ル海關收入ヲ官銀號ニ引渡ス可キコトヲ要求シ之ニ應セサル時ハ必要ト認ムル手段ヲ採ル可キ旨公文ヲ以テ通告スルコトトナリタル處右ニ關シ崎川顧問ヨリ朝鮮銀行カ附屬地内ニ在リ且日本人經營ノ銀行ナルコトヲ理由トシテ本官ニ干涉方申出ツルコトアルヘキモ其場合可然斡旋アリ度キ旨依頼越セリ  
支、北平、奉天、長春、哈爾賓、間島、牛莊、關東長官へ轉電セリ

247 昭和7年6月18日 山岡関東長官より  
斎藤外務大臣宛(電報)

總稅務司の送金督促に關し正金銀行大連支店  
の海關長への回答振りについて

関東庁 6月18日前發  
本省 6月18日後着

第三三號(極秘)  
貴電第二二號ニ關シ

河相ヨリ

此處一週間以前ヨリ福本ニ於テ大連關收入ノ「レミツタンス」ヲ見合セ居タル處「メ」ヨリ頻ニ送金方督促アリ依テ六日福本ト正金大連支店長ト内々協議ノ上福本ヨリ正金及中國兩銀行支店ニ對シ送金方申入レ正金ハ之ニ對シ

(一)滿洲國政府ヨリ送金差止メノ嚴重ナル申入有リ之ヲ無視シテ送金スル事甚夕困難ナル事情有ル事

(二)關東廳外事課長ノ意見ニ依レハ事件ハ間モ無ク圓滿解決ノ見込ミニテ面倒カ長期ニ亘ルモノトモ思ハレサルニ付此ノ際ハ暫ク送金ヲ見合セ事件解決迄渦中ニ投セサル事

銀行トシテ賢明ノ策ナリトノ事ナリ  
(三)右ノ次第二付正金トシテハ稅關長ノ「テンダー」ニヨリ正金ノ稅關收入預金カ送金ノ爲引出サレサル様稅關長ノ配慮ヲ得タシ

トノ趣旨ヲ口頭回答ヲ爲シ問題ヲ遷延スル事トセリ尙中國銀行ヨリモ略々同様ノ回答有リ右兩行ノ回答振リハ十七日福本ヨリ「メ」宛要領電報濟ミ尙此ノ上「メ」ヨリ福本宛送金ヲ迫リ來ル場合ニハ滿洲國ヨリ福本ヲ通スル等ノ方法ニ依リ「メ」ニ對シ滿支交渉繼續中送金命令中止方嚴重要求シ若シ肯セサレハ「メ」ニ於テ事件圓滿解決ノ誠意無キモノト認ムルノ外無キ旨申入レ第二段ノ交渉ニ入ル準備ヲ爲シ置ク事然ルヘシト存ス  
在京關東長官へ轉達ヲ請フ

支、奉天、長春、北平へ轉電セリ

248 昭和7年6月20日 在安東米沢領事より  
斎藤外務大臣宛(電報)

中國銀行による保管海關稅收の滿州国引渡し  
実施について

249 昭和7年6月21日 在中國守屋(和郎)臨時代理公使より  
斎藤外務大臣宛(電報)

滿州国の塩稅外債負擔分等の送金延滞を督促  
のため塩務總弁による日本人塩務官吏派遣に  
ついて

上海 6月21日後発  
本省 6月21日後着

正金銀行營口支店の關稅收入上海送金拒絶は  
中國銀行經由の協定に基づくためとの總稅務司への同行回答について

第六號 第九八五號

本官發長春宛電報

第六號

關東廳 6月22日前發  
本省 6月22日後着

滿洲側ニ於テハ四月以來鹽稅外債負擔分及同附加稅(八ヶ月分計約九十萬元)ヲ上海ニ送金セス外債支拂ニ支障ヲ來シ居ル趣ニテ今回鹽務總辦ハ青島鹽務稽核支署員北村大享ヲ滿洲ニ派遣シ前記延滯額及今後ノ外債部分ヲ上海鹽務總辦宛送金方滿洲當局トノ間ニ話合ヲ附ケシムルコトニ決シ(北村ノ話ニ依レハ右ハ總辦限りノ決定ナル由)北村ハ右趣旨當方ニ内密申出タリ本件ニ付テハ支那側ヨリ何等申出ニ接シ居ラサルモ同人ニ對シ使命遂行上非公式ニ便宜供與方適當ト考ヘラルルニ付御差支ヘ無クハ右ニ御取計ヲ請フ大臣、北平、奉天、營口、南京、關東廳へ轉電セリ

250 昭和7年6月22日 山岡関東長官より  
斎藤外務大臣宛(電報)

251 昭和7年6月23日 在長春田中領事代理より  
斎藤外務大臣宛(電報)

塩稅收入の外債負担分は各債權國との直接交渉で解決すべきとの滿洲國方針について

252 昭和7年6月24日 在長春田中領事代理より  
斎藤外務大臣宛(電報)

朝鮮銀行安東支店による保管關稅收入の滿洲國へ引渡し実施について

本官發在支公使宛電報第六號  
貴電第六號ニ關シ

253 昭和7年6月27日 在中國守屋臨時代理公使より  
斎藤外務大臣宛(電報)

第三四九號 滿洲國ノ意向ハ南京政府トノ間ニ本件ニ關スル話合ヒヲ附ケルコト事實不可能ナルノミナラス本件ハ外國人ノ場合ト

稍趣ヲ異ニシ居ルカ故ニ外債負擔分ヲ上海ニ送金スルモ南京側ノ態度如何ニ依リテハ無意義ノ結果トナル處アルニ依リ曩ニ發表シタル鹽務行政ニ關スル聲明(本官發大臣宛電報第九六號參照)第一項ニモ明示シタル通り本件ハ各債權分約二百萬元ハ別途積立テ保留シ居レリ從テ鹽務總辦ヨリ派遣員ニ對シテハ右「ライン」ニ依リ應酬スルヨリ外債ナシトノ意向ヲ有シ居ルニ付北村ノ來長モ效果ナキヤニ認メラル御参考迄

第三五三號 往電第三五〇號ニ關シ  
廿四日源田内話ニ據レハ安東鮮銀ハ保管中ノ稅收鎮平銀八萬六千三百六十餘兩及金六千四百二十餘圓ヲ本日滿洲國側ニ引渡スコトナレリ尙滿洲國側カ既ニ押收シタル各地稅收總額ハ約二百五十萬弗ニ達シ居ル趣ナリ  
支、北平、奉天、哈爾賓、安東、問島、牛莊へ轉電セリ

上 海 6月27日後發  
本 省 6月28日前着

ノ如ク同支店ノ責任ヲ問フナラハ右回答ヲ取次キ得サルモ  
今回ニ限り考慮シ遣ル旨口答ヲ以テ I、G 側ニ申入レタル  
趣ナリ

貴電第三六七號ニ關シ  
第一〇二一號

正金支店ヨリ貴電ノ通り二十三日附回答セルニ對シ I、G  
ヨリ二十七日附書翰ヲ以テ稅收保管協定ニ依レハ稅關預金  
ノ引出ハ稅關長ノ絕對權限ニ屬シ中國銀行ノ干與スル所ニ  
非ス又同條項ハ右預金カ「上海送金ノ爲」中國銀行ニ引渡  
サルヘキモノナル事ヲ規定シ居リ而シテ中國銀行カ地方官  
憲ニ依リ送金ヲ阻止サレ居ル實情ニ於テハ正金支店カ稅關  
長ノ直接送金命令ヲ拒否スヘキ理由無ン

尙牛莊正金支店長ハ最初該協定ヲ送金拒否ノ根據ト爲サス  
地方官憲カ稅收ヲ保留スヘキヲ命シタル爲命令ニ應シ難シ  
ト答ヘタルカ右ニ徵シ前記正金側ノ議論カ虛構ナル事ヲ知  
リ得ヘシ

故ニ予ハ本件稅收ヲ上海ニ即時振替方ヲ要求シ尙遲延ニ依  
ル一切ノ紛糾ニ對シテハ正金ニ於テ其責ニ任スヘキモノナ  
ル事ヲ附言ス

右ニ對シ當地正金支店ハ本件ニ直接關係無キヲ以テ右末段

254 昭和7年6月28日 橋本関東軍參謀長より  
滿洲中央銀行營業方針左ノ如シ、

真崎參謀次長宛(電報)

### 滿州中央銀行の營業方針について

閏東軍 6月28日後發  
參謀本部 6月28日後着

關參滿第二九號(秘)  
滿洲中央銀行營業方針左ノ如シ、

### 營業方針

一、成ル可ク速ニ通貨ノ統一ヲ完成スルコト、  
二、通貨ノ安定ニ努ムルコト、

(イ)通貨ノ統制ヲ嚴ニシ紙幣發行額ヲ經濟的ニ必要ナル程  
度ニ止メ季節的ニ調節シ増發ニ陥ラサラシムルコト、

(ロ)財政的壓迫ニ依ル通貨ノ不自然ナル膨張ヲ避ケルコト、

(ハ)準備ノ充實、爲替ノ操縱ニ注意スルコト、

(ニ)勉メテ小額紙幣ヲ發行シ滿洲ニ於ケル民度並ニ從來ノ  
習慣ニ順應セシムルコト、

三、當行營業ノ實體ハ舊行號ノ業務ヲ繼承シ其店舗及從業者  
共從來ノ儘之ヲ引繼クヲ以テ差當リ左ノ方針ニ依リテ經  
營スルコト、

(イ)舊行號ノ總行ハ之ヲ分行トシ從來ノ總辦ヲ分駐理事ト  
シ各分、支行ヲ其儘統轄セシムルコト、

(ロ)各分行ニ駐在員兩三名(日本人)ヲ派遣シ總行ト連絡ヲ  
圖ラシムルコト、

(ハ)業務ハ漸進的ニ之カ改善ヲ圖リ此ノ間堅實ヲ旨トスル  
コト、  
(ニ)同一地方ニ在ル分、支行ノ整理ヲ速カニシ之ヲ併合統  
一シ一面新方面ニ發展ヲ圖ルコト、

(ロ)金利ハ目下著シク高率ナルヲ以テ漸次之カ低減ヲ圖ルコ  
ト、  
五、國內各地爲替ノ流通ヲ圖リ料金ヲ低減シ各地金融ノ平衡  
ヲ保ツニ勉ムルコト、

六、外國爲替ニ關シテハ差當リ正金、鮮銀其他現設外國銀行  
ノ如ク同支店ノ責任ヲ問フナラハ右回答ヲ取次キ得サルモ  
今回ニ限り考慮シ遣ル旨口答ヲ以テ I、G 側ニ申入レタル  
趣ナリ

北平、奉天、長春、安東、牛莊、問島へ轉電シ上海、南京  
ヘ轉報セリ

十四、政府カ朝鮮銀行ヲ經テ一千萬圓ノ借款ヲナサシメタル

ルコト、

十五、政府カ朝鮮銀行ヲ經テ一千萬圓ノ借款ヲナサシメタル

拓務次官殿  
内閣書記官長殿  
外務次官殿  
内務省警保局長殿  
指定廳府縣長官殿  
奉天哈爾賓吉林各總領事殿  
關東軍參謀長殿

關東廳警務局長

(7月4日接受) 記

關機高支第一〇五七〇號ノ二

昭和七年六月二十九日

256 昭和七年6月29日  
林関東厅警務局長より  
有田外務次官他宛  
在京關東長官へ轉報請フ  
支、北平、奉天、長春へ轉電セリ

中央銀行開業に伴う首脳者協議、紙幣印刷状  
況および財政部布告について

(7月4日接受)

關東憲兵隊司令官殿  
滿鐵調查課長殿  
上海事務官殿  
管下各警察署長殿  
滿洲中央銀行開業準備

一、滿洲中央銀行創立二關スル協議

滿洲國中央銀行設立ニ關シ本月十五日ヨリ二十二日ニ至  
ル間 在新京中央銀行ニ於テ黒龍江省廣信公司、吉林永衡  
官銀號、奉天東三省官銀號邊業銀行等ノ首脳者ヲ招集シ  
會議ヲ開催左記事項ヲ協定セリト言フ

記

一、前記四銀行ヲ併合シ中央銀行ト改稱シ總行ヲ新京ニ置  
クト  
一、合併ニ依ル中央銀行ノ現資產ハ現大洋三千萬元トス  
一、中央銀行成立後ハ更ニ五千萬元ヲ増資ス  
一、當分ノ内從來ノ紙幣ヲ其儘流用シ新紙幣發行ト同時ニ  
漸次舊紙幣ヲ回收ス

ハ滿洲建國資金トモ見ルヘキ政費支辨ノタメナルカ故ニ  
該資金ヲ本行ノ準備ニ預ケ入レラル時之ニ對シ全額約  
銀三千萬圓ノ貸上ヶハ已ムヲ得サルモノト覺悟セルモ此  
ノ貸上ヶニ依ル紙幣増發ハ結局海外流出其他ノ形ニ於テ  
該準備金全額ヲ取付ケラルヘキモノナルニ就キ斯クテハ  
本行ハ三千萬圓ノ銀準備ヲ失ヒ元ノ官銀號ニ還元スルカ  
如キ状態トナル虞アルヲ以テ、此ノ場合更ニ前額位ノ準  
備<sup>(補カ)</sup>ヲ他ヨリ調達スルノ必要アリ、  
備捕充ヲ他ヨリ調達スルノ必要アリ、

255 昭和7年6月29日 山岡關東長官より  
斎藤外務大臣宛(電報)

中國關稅担保外債償還額中の滿州國負担分に  
關する福本海關長の試算について

大連 6月29日後發  
本省 6月30日前着

第五五號

二十八日北平發大臣宛電報第三三八號ニ關シ

福本ノ語ル所ニ依レハ

(一)一九三一年全支海關收入中外債擔保ニ充當スヘキ部分ノ

(二)「イングラム」ノ引用セル數字ハ多分一九三一年度支拂  
「ローン、エンド、インデムニティー、サービス、アカウ  
ント」ヲ根據トスルモノナルカ右ノ中ヨリ當然滿洲國ニ  
負擔ノ義務無キ獨、塊、露賠償金年額推算約一千百萬海  
關「テール」及同年中支拂ヲ完了セル筈ナル一八九五年  
佛獨四分利債及本年三月二十日支拂完了ノ筈ナル一八九  
六年英獨五分利債ノ存スルコトヲ考慮ニ加ヘ居ラス  
(三)一九三一年度中關稅擔保ニ對シ支拂フヘキ外債及賠償金  
ノ概算ハ五千百萬海關「テール」ナルモ右ノ英獨約一千  
萬海關「テール」ハ滿洲國力海關收入ニ着手セル時期ト  
觀ルヘキ四月一日以前ニ支拂ヲ完了セル筈ナルヲ以テ滿  
洲國ノ分擔額ヲ計算スルニ當リテハ少クトモ之ヲ控除ス  
ルヲ要スヘク(其ノ他ニモ支拂完了ノモノアルヘキモ)之  
等ノ事實ヲ綜合スレハ一九三一年滿洲國ノ分擔額ハ約四  
百三十萬海關「テール」ナルヘシ  
(四)大連關稅收入ヲ滿洲國ニ收納スル場合ハ大連ヲ含ム海關  
收入中ヨリ右外債負擔額ヲ支拂フ場合ニ比シ明年度以降

總額二億四千二百七十萬海關「テール」滿洲七海關收入  
ノ之ニ該當スル額二千五百萬比率一〇、三四ナリ

(二)「イングラム」ノ引用セル數字ハ多分一九三一年度支拂  
「ローン、エンド、インデムニティー、サービス、アカウ  
ント」ヲ根據トスルモノナルカ右ノ中ヨリ當然滿洲國ニ  
負擔ノ義務無キ獨、塊、露賠償金年額推算約一千百萬海  
關「テール」及同年中支拂ヲ完了セル筈ナル一八九五年  
佛獨四分利債及本年三月二十日支拂完了ノ筈ナル一八九  
六年英獨五分利債ノ存スルコトヲ考慮ニ加ヘ居ラス  
(三)一九三一年度中關稅擔保ニ對シ支拂フヘキ外債及賠償金  
ノ概算ハ五千百萬海關「テール」ナルモ右ノ英獨約一千  
萬海關「テール」ハ滿洲國力海關收入ニ着手セル時期ト  
觀ルヘキ四月一日以前ニ支拂ヲ完了セル筈ナルヲ以テ滿  
洲國ノ分擔額ヲ計算スルニ當リテハ少クトモ之ヲ控除ス  
ルヲ要スヘク(其ノ他ニモ支拂完了ノモノアルヘキモ)之  
等ノ事實ヲ綜合スレハ一九三一年滿洲國ノ分擔額ハ約四  
百三十萬海關「テール」ナルヘシ  
(四)大連關稅收入ヲ滿洲國ニ收納スル場合ハ大連ヲ含ム海關  
收入中ヨリ右外債負擔額ヲ支拂フ場合ニ比シ明年度以降

### 三 滿州國財政關係

一、中央銀行ノ總資本ハ現大洋八千萬元トス

一、中央銀行兌換券ハ資本ノ三倍ヲ發行シ當分兌換ヲ許サ  
名)從事員ニ對シテハ増給スルコト(増給ハ約五割見當  
ナリト)

#### 三、滿洲中央銀行紙幣印刷

滿洲中央銀行ニ於テハ新紙幣發行スヘク既ニ東京ニ於ケ  
ル内閣印刷局ニ對シ印刷方ヲ依頼シタル由ナルモ七月一  
日ノ開業迄ニ間ニ合ハサルヲ以テ一時東三省官銀號カ米  
國銀行券印刷會社ニ注文シ居タル未發行ノ在庫紙幣五十  
萬元ヲ差當リ通用セシムヘク奉天東記印刷所ニ於テ元大  
連在勤中ノ日本精蠟會社員北原通定ヲ監理員ニ任命本月  
二十一日同人着任ト同時ニ多數ノ未發行紙幣ノ保管場所  
等ニ奉天憲兵隊ニ依頼シ現役軍人五名ヲ警戒員ニ充テ  
本月二十二日ヨリ之カ印刷ヲ開始セルカ印刷スル紙幣ハ  
東三省官銀號現洋十圓券ニ赤字ヲ以テ滿洲中央銀行及總  
裁榮厚ノ署名捺印シタルモノニシテ目下全機械ヲ運轉シ  
毎日五萬枚ヲ印刷シツツアリ

#### 三、滿洲中央銀行紙幣發行ニ對シ省城支那人方面ニ於テハ左

ノ如キ言動ヲナシ同紙幣發行ノ場合ハ現洋必ス昂騰スル  
モノト觀測シ居レリト言フ

記

二、中央銀行ノ基金ハ貸金ニ因ルモノニシテ滿洲國ニハ其  
ノ實力ナシ

二、東三省金融ハ未タ良好ノ境地ニアラス紙幣亂發ニ起因  
ス中銀モ亦此ノ策ヲ用フヘク其ノ曉ハ一旦大局上ニ變  
動アレハ中銀紙幣ハ恐ラク奉票ノ價格ヨリモ低落スヘ  
シ

#### 三、中央銀行開辦ニ關スル布告

新京財政部ニ於テ中央銀行開辦ニ關スル左記布告文ヲ各  
地ニ送付シ一般ニ布告セシム

記

滿洲建國ノ精神ハ舊軍閥ノ秕政ヲ剷除スルニアリ(中略)  
舊軍閥時代ニ於ケル種々弊害枚舉ニ違アラス就中其ノ流  
毒最毛甚タシキハ紙幣鑑(鑑)發ノ事ニシテ私利私慾ノ爲一片  
ノ紙片ヲ發行シテ萬民ノ膏血ヲ吸取シテ爭權ノ利器トセ  
リ其ノ暴政久シキニ亘リ金融ハ根本ヨリ破壞セラレ滿蒙

ノ天地容易ニ收拾スル能ハサル狀態ニ陥リ此ノ種ノ紙幣

ハ市面ニ充滿シ價格又騰落亂調ヲ辿リ遂ニ不換紙幣トナ

リ三千萬民衆ノ金融流通ニ支障ヲ來シ投資事業ヲ妨害シ

經濟界ニ影響スル處大ナルモノアリタリ滿洲國政府ハ是

等民衆ノ困苦ヲ座視スルニ忍ヒ斯新國家建設ト同時ニ之

カ整頓スルノ決心ヲ以テ着々研究ヲ進メ從來ノ東三省官

銀號吉林永衡官銀號黑龍江省官銀號及邊業銀行ノ四行ノ

營業ヲ合併シ以テ中央銀行ヲ組織シ政府ニ於テ責任ヲ以

テ其ノ監督保障ヲナス之レ即チ完全無缺成績良好ノ中樞

金融機關ナリ其ノ製造發行スル紙幣ハ金融ノ平穩及幣制

ノ統一ヲ謀ラムカ爲籌議進行中ノ處舊曆三月ニ至リ準備

充實シ多額ノ現金ヲ貯藏シテ兌換ニ備ヘ政府ヨリ貨幣法

滿洲中央銀行法滿洲中央銀行組織法ヲ公布シ先ツ三千萬

元ノ資本ヲ以テ中央銀行ヲ組織シ總裁以下幹部職員モ亦

既ニ任命シテ組織ニ從事セシメタリ近ク又舊貨幣整理法

ヲ發布スヘク目下極力準備ヲ進メ近ク開業セントス凡ソ

滿洲國民ハ均シク政府ノ方針ヲ體シ朝野上下一致中央銀

行ノ發展ニ盡力シ以テ公私經濟ノ根本トナシ貨幣制度ヲ  
健全ニシ人民ノ福利ヲ增進センコトヲ希フ

257

昭和7年7月2日

林閔東寧警務局長より  
有田外務次官他宛

茲ニ布告ス  
六月十五日  
財政部總長 熙 治  
以上

滿洲國新旧貨幣換算率標準の決定について  
(7月7日接受)

昭和七年七月二日

關東廳警務局長

拓務次官殿  
內閣書記官長殿  
外務次官殿  
內務省警保局長殿  
指定廳府縣長官殿  
管下各警察署長殿(除奉天兩署)

滿洲國新旧貨幣換算率標準決定

財政部令ヲ以テ滿洲ニ於ケル新舊貨幣ノ換算率標準ヲ發表シ本標準ニヨリ舊貨幣ヲ漸次回収スル方針ナリト云フ

記

本日財政部令第三五號ヲ以テ左記換算率公布

七月一日ヨリ施行セラル(新國幣一圓ニ對スル比率)

一、東三省官銀號發行兌換券(天津券ヲ含マス) 一元

二、邊業銀行發行兌換券(同上)

三、遼寧四行號聯合發行準備庫發行兌換券 一元

四、東三省官銀號發行兌換券 一元

五、公濟平市錢號發行銅元票 一元

六、東三省官銀號發行哈爾賓大洋票 一元

(但シ監理官ノ印アルモノ)

七、吉林永衡官銀號發行哈爾賓大洋票 一元

(同上)

八、黑龍江省官銀號發行哈爾賓大洋票 一元

(但監理官ノ印アルモノ)

九、邊業銀行發行哈爾賓大洋票 一元

(同上)

一〇、吉林永衡官銀錢號發行官帖 五百吊

一一、吉林永衡官銀錢號發行小洋票 五十元

一二、吉林永衡官銀錢號發行大洋票 一元三〇

一三、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一六八〇吊

一四、黑龍江省官銀錢號發行四釐債券 一四四〇

一五、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

一一、吉林永衡官銀錢號發行小洋票 五十元  
一二、吉林永衡官銀錢號發行大洋票 一元三〇  
一三、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一六八〇吊  
一四、黑龍江省官銀錢號發行四釐債券 一四四〇

一五、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

一六、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

一七、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

一八、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

一九、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

二〇、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

二一、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元四〇

二二、吉林永衡官銀錢號發行大洋票 一元三〇

二三、黑龍江省官銀錢號發行大洋票 一元三〇

大連海關收入送金拒否は日本による大連海關協定破壊との總稅務司声明について

上海 7月6日後着 本省 7月6日後着 上海 7月6日後着 本省 7月6日後着

第一〇五〇號

五月「メーズ」ハ四日英國議會ニ於テ「エデン」外務次官カ保守黨議員「サミニエル」ノ質問ニ對スル答辯中「大連海關協定ノ趣旨ハ密輸入防止ノ爲大連ニ支那ノ海關ヲ設置スルニアリタリ」ト述ヘタルニ對シ大要左ノ通聲明ヲ發シタリ

第一〇五〇號

五月「メーズ」ハ四日英國議會ニ於テ「エデン」外務次官カ保守黨議員「サミニエル」ノ質問ニ對スル答辯中「大連海關協定ノ趣旨ハ密輸入防止ノ爲大連ニ支那ノ海關ヲ設置スルニアリタリ」ト述ヘタルニ對シ大要左ノ通聲明ヲ發シタリ

一〇、吉林永衡官銀錢號發行官帖

七、吉林永衡官銀號發行哈爾賓大洋票

八、黑龍江省官銀號發行哈爾賓大洋票

(但監理官ノ印アルモノ)

九、邊業銀行發行哈爾賓大洋票

一元二五

(同上)

七、吉林永衡官銀錢號發行官帖

八、黑龍江省官銀錢號發行哈爾賓大洋票

(但監理官ノ印アルモノ)

九、邊業銀行發行哈爾賓大洋票

(但監理官ノ印アルモノ)

### 三 滿州國財政關係

海關年收總額一四二、〇四八、五四一海關兩滿洲海關年收總額一九、九一〇、〇一七海關兩賠償金及債務支拂年額一

支那政府ハ右「エデン」次官ノ解釋ニ贊同スルヲ得ス大連協定ノ内容ヲ一覽スレハ些少ノ相異點ヲ除キ大連海關ノ職務カ他ノ條約港ニ於ケル一般支那海關ノ夫レト異ル處ナキハ明ナリ密輸入ノ防止ハ何レノ海關ニ於テモ重要ナル職務タルニハ相違ナキモ海關行政ノ主タル目的ハ歲入ノ徵收ニアリ故ニ日本カ右協定ヲ破壞スルコトハ單ニ目下盛ニ行ハレ居ル大連ニ於ケル密輸入ニ油ヲ注キ其結果稅收上ノ損失ヲ來スニ止マラス其結果現實ニ支那政府ノ歲入減少ヲ招キ關稅擔保債務ノ支拂ニ支障ヲ來スニ至ルベシ

滿洲海關接收ノ結果七月ノ稅收ハ激減シ平常ナラハ餘剩ヲ見ルヘキニ七月ハ稅收一二、八二七、七四四上海兩ニ對シ

(2) 賠償金及債務支拂額一二、九三五、三八四上海兩ニ達シ〇七、六四〇上海兩ノ不足ヲ生スルニ至レルカ之以上些少ニテモ收入ノ減少ヲ來サハ支拂ニ支障ヲ來スヘシ尙滿洲海關接收カ關稅擔保債務ノ支拂ニ影響スル程度ヲ説明スル爲過去五年間(一九一七年ヨリ一九三一年)ノ平均收支ヲ例示スレハ左ノ通

答について  
(7月19日接受)

機密公第二〇六號

昭和七年七月八日

在中華民國

昭和七年七月八日

三 满州国財政関係

公使館一等書記官 堀内 干城〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和七年七月八日附在南京上村二等書記官宛機密公第二〇

三號信寫送附

大連其ノ他海關ノ稅收問題等ニ關スル件

機密公第二〇三號

昭和七年七月八日

在中華民國

公使館一等書記官 堀内 干城

在南京

一等書記官 上村 伸一殿

大連其ノ他海關ノ稅收問題等ニ關スル件

別添公文外交部ニ御轉達相成度

本信寫送附先

外務大臣 北平 上海 奉天 長春 關

東廳

（別添）

以書翰啓上致候。陳者、客月二十五日附貴翰ヲ以テ大連、

外第四六號

（別添）

昭和七年七月六日

敬具。

日本帝國臨時代理公使 矢野 真  
國民政府外交部長 羅文幹殿

260 昭和七年七月十四日 在奉天森島總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

塩務總弁派遣の日本人塩務官吏來訪報告およ  
び債權国との直接交渉よりも塩稅外債負担分  
の塩務稽核總所送金が得策との意見具申

奉天 7月14日後發  
本省 7月14日後着

第一〇六一號

本官發長春宛電報

第一一八號

在支公使宛貴電第六號ニ關シ

（）北村先般來數次來訪國民政府ヨリ派セラタルニ非スシ

テ債權國ノ利益ヲ事實上代表シ居ル鹽務稽核所ヨリ派セラ  
レタル次第ナル旨ヲ前提シ在支公使發長春宛電報第六號ト

略同様ノ話ヲナシ本官ノ側面的援助ヲ求メタリ依テ本官ヨリ本件ハ財政部ノ擔任ト思考セラルルニ付同人持參ノ凡ユ

安東及營口海關ノ稅收問題等ニ關シ御申越相成閱悉致候。  
貴部長ハ日本政府カ大連海關ニ干渉シ同時ニ脅迫ヲ以テ同  
海關稅收ノ總稅務司向送付ヲ停止セシメタルヲ以テ右ニ關  
シ日本政府ハ責任ヲ負フヘキモノナル旨申越サレタル處、  
帝國政府ハ大連海關ニ對シ貴部長御申越ノ如キ措置ヲ採リ  
タルコト無之候。  
尙安東及營口海關ノ稅收ニ對スル滿洲政權ノ措置ニ關シテ  
モ帝國政府ニ於テ何等責任ヲ負フヘキ筋合ニ非サルコトハ  
四月六日附公文ヲ以テ既ニ申進シタル通ナルニモ拘ラズ貴  
部長ハ更ニ右ニ關シ本件稅收問題關係ノ日本人顧問及職員  
ハ日本政府カ滿洲政權ヲ操縱スル爲使用スルモノナルヲ以  
テ日本政府ノ責任同避ヲ許ササル所ナル旨申越サレタルカ  
滿洲政權僱聘ノ日本人顧問及職員ハ日本政府ト何等關係ナ  
キモノナルコトハ既ニ再三申進シタル通ニ有之候。  
要之貴部長御申越ノ諸點ハ以上ノ如ク何レモ其ノ根據ヲ缺  
ク次第ニテ帝國政府トシテ容認シ得サル所ニ有之候。  
右回答申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。  
昭和七年七月六日

ルノ惧鮮カラス寧口此ノ際ノ措置トシテハ外債負擔部分ヲ  
塙務稽核所<sup>(總欠款)</sup>ニ送附シ支拂ノ責ヲ同所ニ轉嫁スル方得策ト思  
考セラル

十三日本官駒井長官ニ面會ノ際右私見ヲ開示シタルニ長官  
モ同意氣ノ様見受ケラレタルニ付右御含ミノ上北村二對シ  
然ルヘク援助相成ル方如何カト存ス、卑見御参考迄  
大臣、支、北平、南京、牛莊ニ轉電セリ

261 昭和7年7月14日 在長春田代領事より  
内田外務大臣宛(電報)

長春 7月14日後發  
本省 7月14日後着

中國關稅担保外債の償還額のうち滿州國負担  
分を外國銀行に積立て支払いに応じる旨の謝  
介石外交部總長の声明について

別電 七月十四日發在長春田代領事より内田外務大

臣宛第四一二二号

右声明文

長春 7月14日後發  
本省 7月14日後着

第四一二一號

第四一二二號

滿洲國政府ハ從來中華民國ノ負擔セル海關收入ヲ擔保トス  
ル外債ハ飽迄之ヲ尊重シ且ツ其償還ニ付テハ合理的方法ニ  
依リ之ヲ分擔スルノ用意アルコト屢次聲明シタル通ナルカ  
茲ニ滿洲國ハ此ノ意思ヲ具体的事實ニ付テ表明シ且ツ義務  
ノ履行ヲ確實且ツ容易ナラシムル爲本年三月二十八日以降  
滿洲國ニ於テ抑留ニ係ル海關收入並今後收入スヘキ海關收  
入ノ内ヨリ一九三一年ニ於テ中華民國カ償還スヘキ外債及  
賠款ノ總額ヲ一九三一年ニ於ケル滿洲全海關ノ收入額ト滿

洲ヲ除ク全支那ノ海關收入額トノ比ニ依リ按分負擔スルコ  
トトシ右原則ニ從ヒ計算シタル滿洲國ノ分擔額ト一九三一  
年ニ於ケル滿洲全海關ノ收入額トノ比即チ千分ノ二百十五  
ヲ前記抑留額及今後收入スヘキ海關收入ニ乘シテ得タル金  
額ヲ下ラサル金額ヲ確實外國銀行ニ積立てツルノ制度ヲ確立

スルコトトセリ從テ滿洲國ハ關係債權國又ハ總稅務司ノ要  
求アル場合ハ正確ナル資料ノ提出ヲ求メ何時ニテモ滿洲國  
ノ負擔部分ヲ確定シ之ヲ前記積立て金ヨリ又ハ積立て金ノ不足  
スル場合ニ於テハ滿洲國ノ一般歲入ヲ以テ支拂ニ應スヘキ  
コトヲ宣言ス

以上述フル處ノ聲明ノ第一次ノ實行トシテ滿洲國政府ハ本  
年三月二十八日以降六月二十日迄ニ哈爾賓營口芝罘及大連  
ノ各海關ニ於テ抑留シタル二百五十萬四千百六十餘海關兩  
ニ對シ不取敢五十四萬海關兩ヲ橫濱正金銀行大連支店ニ積  
立タリ

支、北平、奉天、關東長官ニ轉電セリ

262 昭和7年7月15日 在ハルビン長岡總領事代理より

内田外務大臣宛(電報)

正金銀行上海送金の容認に際しての滿州國財

(別電)

長春 7月14日後發  
本省 7月14日後着

支、北平、奉天、關東長官へ轉電セリ

滿洲國政府ハ十四日別電第四一二二號要旨ノ英文聲明書ヲ謝  
介石ノ名ヲ以テ總稅務司及在支日、英、米、佛、伊各國公  
使並在東京英、米、佛、伊各國大使ニ電報シ同時ニ右別電  
ノ通日本文ノ聲明書ヲ財政總長ノ名ヲ以テ發表スル事トナ  
レリ

#### 外債負担分の積立てに關し滿州國の香港上海 銀行への依頼交渉について

ハルビン 7月15日後發  
本省 7月15日後着

第六九一號

往電第六八七號ニ關シ

加藤顧問ハ財政部ノ訓令ニ基キ昨十四日當地香港上海銀行  
支配人ヲ往訪ノ上鹽稅並ニ關稅ヲ擔保トスル外債ノ滿洲國  
負擔額ヲ確實ナル外國銀行ニ積立て度キ處貴方ニ於テ之ヲ  
引受クル意圖アリヤ否ヤヲ質シタルニ同支配人ハ之ハ頗ル  
歡迎スル所ナルモ各國カ未タ滿洲國ヲ承認セサルニ先立チ  
本提案ヲ受諾スヘキヤ否ヤハ政治的ニモ重大ナル問題ナル  
ニ付本店ニ請訓スルノ要有ルニ付書面ヲ以テ申出アリ度キ  
旨返答セセル趣ナリ

冒頭往電ノ通轉電セリ

263 昭和7年7月16日 在長春田代領事より  
内田外務大臣宛(電報)

政部による条件提示について

長春 7月16日後発  
本省 7月16日後着

第四一六號

貴電第一五〇號ニ關シ

大橋ヨリ

福本、西ト協議ノ結果財政部當局ハ貴電第一五〇號ノ次第モアリ大体正金ノ要望ヲ容レ正金ニ於テ大連及營口ノ積立金ヲ負擔部分トシテ送附シタル旨總稅務司及關係國へ通告シタル上正金ニ於テ右金額ヲ總稅務司ニ交附スルニ異議ナキモ滿洲國側トシテハ將來右金額ノ性質ニ付爭起ル場合何所迄モ負擔部分トシテ支拂濟ナル旨ヲ主張シ讓ラサル可キニ付其ノ際帝國政府ニ於テ滿洲國ノ立場ヲ支持擁護セラレ度ク又滿洲國內ニ在リ大連分ト性質ヲ異ニスル營口分ニ付テハ將來萬一滿洲國ノ損失ニ歸スル場合ニハ之ヲ辨濟ス可キ旨ノ一札ヲ入レシメ若シ正金ニ於テ右不可能ナラハ中國銀行並ニ實力ヲ以テ押收スル形式ニテ之ヲ取得シ以テ安東及龍井村ニ於ケル鮮銀ノ取扱振リト均衡ヲ取リ度シ

財政部ハ帝國政府ニ於テ右二點ニ御同意ナラハ前顯手續ヲ

264 昭和7年7月21日 在長春田代領事より

内田外務大臣宛(電報)

関稅收入上海送金は大連分のみとする滿州國意

向および正金銀行への同國政府の不満について

長春 7月21日後発

本省 7月21日後着

第四二一號

貴電第一五六號ニ關シ

大橋ヨリ

財政部ニ於テハ大連分ト牛莊分ト引離シ差當り直ニ大連分ヲ送金スル趣ナリ尙同部ニ於テハ牛莊分ハ正金ニ誠意アラハ條例ノ規定トハ別ニ事實上ノ保障ヲ爲ス事容易ナルニ拘ハラス飽ク迄之力無條件送金ヲ主張スルハ無誠意ノ極ニテ斯クテハ如何ニモ鮮銀トノ振合ヲ失スルニ付本省ヨリ嚴重ニ正金ニ對シ反省ヲ促サレン事ヲ希望シ居レリ

尙外國人ノ治外法權ハ滿洲國ハ其ノ對外通牒ノ趣旨ニ依リ

嚴ニ之ヲ尊重ス可キモ法律的ニ觀テ滿洲國ニ其ノ義務アリヤ否ヤハ疑問ノ餘地有ルニ鑑ミ東三省官銀號ノ多額ノ預金ヲ有シ之カ引渡ヲ拒ミ居ル「ナショナル、シチー」等ニ對シ脅威ヲ與フル效果等ヲモ考慮シテ實力押收ノ形式ヲ執ルモ一策ナラスヤト思考ス

支、北平、奉天、牛莊、關東廳長官ニ轉電セリ

265 昭和7年7月23日 在中國內臨時代理公使より

内田外務大臣宛(電報)

中國政府は正金銀行の關稅收入送金拒否を公

表の用意ありとの總稅務司の談話について

上 海 7月23日後発

本省 7月23日後着

第一〇九〇號

閣下發長春宛第一五〇號及第一五六號ニ關聯シニ二十三日往電第一〇八九號「メーズ」トノ會談ノ節「メ」ハ正金カ六月二十七日以前ノ稅關預金ヲ上海ニ送金セサルハ全然辯解ノ餘地ナク國際銀行間ニ甚タシキ非難ヲ招キ信用ヲ失シ居ル旨聞キ及ヒ居ルカ南京政府トシテハ本件送金遲レ居ル爲

進行スル意図ナルニ付何分ノ儀至急御回示相成度シ  
支、北平、牛莊、奉天、關東長官ニ轉電セリ

進行スル意図ナルニ付何分ノ儀至急御回示相成度シ

300

第四二九號

右聲明文

長春 7月25日後発  
本省 7月25日後着

往電第四二一號ニ關シ

滿洲國政府ハ二十五日別電第四三〇號ノ通財政總長ノ聲明書ヲ發表シ同時ニ在支日、英、米、佛、伊各國公使及在東

301

京英、米、佛、伊各大使並總稅務司ニ對シ謝介石ノ名ヲ以テ右趣旨ノ英文電報ヲ發スルコトトナレリ  
支、北平、奉天、關東長官へ轉電セリ

(別電)

長春 7月25日後発  
本省 7月25日後着

第四三〇號

滿洲國政府ハ從來中華民國ノ負擔セル關稅收入ヲ擔保トスル外債ハ飽ク迄之ヲ尊重シ且其ノ償還ニ付テハ合理的方法ニ依リ之ヲ分擔スルノ用意アルコトハ累次聲明シタル所ナルカ今回此ノ用意ヲ具體的ニ事實ニ依リテ表明シ其ノ義務ノ履行ヲ確實且容易ナラシメンカ爲左ノ原則ニ基キ今後關稅收入中ヨリ一定ノ金額ヲ確實ナル外國銀行ニ積立ツルノ制度ヲ設クルコトトセリ

滿洲國ハ中華民國カ其ノ關稅收入ヲ擔保トセル一九三二年三月一日現在ニ於ケル外債ニシテ爾後償還スヘキ總金額ノ中滿洲國ノ負擔スヘキ部分並之カ償還方法ニ付速ニ關係債權國ト協定ヲ爲スヲ必要且妥當ナリト認メ之ニ關シ債權國

又ハ上海總稅務司ヨリ提議アル場合ハ信賴スルニ足ル資料ノ提出ヲ求メ何時ニテモ交渉ニ應スルノ用意アルモ斯ノ如キ協定成立迄ノ暫行措置トシテハ各年次ニ償還スヘキ金額ヲ其ノ前年ニ於ケル滿洲國關稅收入總額ト之ニ中華民國關稅收入總額ヲ加ヘタル金額ノ比率ニ依リ按分シ滿洲國ノ負擔部分ヲ決定ス

(2) 然レトモ滿洲國ハ關稅自主權ヲ有シ今後稅率ノ改正關稅制度ノ整備改正並ニ資源ノ開發ニ依リ關稅收入ノ增加ヲ期シ得ヘク自然右比率ニ變動ヲ生スルコトアルヘキモ斯ノ如キ

滿洲國ノ努力ニ依リテ齊ラサルヘキ新シキ比率ヲ適用スルハ合理的ニアラス故ニ滿洲國ハ右比率ハ如何ナル場合ト雖一九三一年ニ於ケル比率ヲ限度トシ之ヲ超ユルコトナキヲ根本原則トナス  
尙滿洲國政府ハ今回之レカ趣意ヲ具体的ニ表示スルノ一端トシテ曩ニ稅關接收ニ至ル迄ニ抑留シタル關稅收入ヨリ不取敢莊票一、一四〇、一〇一圓<sup>(元カ)</sup>九五ヲ橫濱正金銀行大連支店ヨリ上海總稅務司宛送金セシムルノ手續ヲ了セリ但シ此ノ金額ニ付テハ追テ滿洲國負擔部分ノ確定次第清算スルノ權利ヲ留保ス

右聲明ス

支、北平、奉天、關東廳へ轉電セリ

機密第六二六號

昭和7年7月27日

在安東米沢領事より

内田外務大臣宛

安東海關收入を滿州國財政部に送金について

(8月1日接受)

昭和七年七月廿七日

在安東

領事 米澤 菊二〔印〕

關稅收として受領との總稅務司回答について

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

當地海關收入ノ滿洲國財政部へノ送金ニ關スル件

十九日中國銀行ヨリ官銀號分號ニ引續<sup>(繼カ)</sup>キ爾來同分號(目下ノ中央銀行支行)ノ名ニ於テ保管中ナル次第ハ既報ノ通ナル處崎川海關監督顧問ノ語ル所ニ據レハ本月廿三日長春財政部ヨリ電報ヲ以テ收入差止ノ日ヨリ海關接收ノ日即チ客リタルニ依リ廿五日同期間ノ全收入九三九、一四二元七〇

月廿八日迄ノ海關收入全部ヲ長春へ送付スヘキ旨ノ命令アリタルニ依リ廿五日同期間ノ全收入九三九、一四二元七〇

又ハ上海總稅務司ヨリ提議アル場合ハ信賴スルニ足ル資料ノ提出ヲ求メ何時ニテモ交渉ニ應スルノ用意アルモ斯ノ如キ協定成立迄ノ暫行措置トシテハ各年次ニ償還スヘキ金額ヲ其ノ前年ニ於ケル滿洲國關稅收入總額ト之ニ中華民國關稅收入總額ヲ加ヘタル金額ノ比率ニ依リ按分シ滿洲國ノ負擔部分ヲ決定ス

三 滿州国財政関係

得ストノ趣旨ヲ回答シ來レル趣ナリ

北平、奉天、長春、南京、關東長官へ轉電セリ

在長春田代總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

269 昭和7年8月1日

塩稅送金に關し稽核總所が債權國を代表して  
交渉する建前とすべき旨を塩務總弁側へ滿州

國政府回答について  
長春 8月1日後發  
本省 8月1日後着

第一號

本官發上海宛電報  
第四五六號

萬歲館北村へ

大連發貴電ニ關シ滿洲國當局ノ眞意ヲ質シタル處内部的ニ  
モ何等理由アルカ如キ口吻ナルモ表面ハ過般源田力貴官ニ

説明シタルト同様ノ意見ニテ目下塩稅ニ關スル限り從來ノ  
方針ヲ變更スルノ意思無キ趣ナリ右ハ稽核總處<sup>(所カ)</sup>自體ハ國際  
關係アリトハ云ヘ從來南京政府ノ支配ヲ多分ニ受ケ來リ關

稅ト稍趣ヲ異ニスル所アリトノ主張ニ基クモノト認メラル

從テ今後ニ於ケル見込ノ有無ハ豫斷シ難キモ本件ノ展開ヲ  
計ル見地ヨリ差當リ稽核總處ト關係債權國間ニ協議ヲ遂ケ  
債權國ヲ代表シテ直接滿洲國ト折衝スルノ建前ヲ以テ何ト  
カ商議ノ餘地ヲ作ルコト然ルヘキヤニ思料セラル

大臣、北平、奉天へ轉電セリ

270 昭和7年8月1日

在長春田代總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

滿州國の關稅送金聲明に關し塩稅には同様の  
対応がないことにつき塩務總弁側の問合せについて

長春 8月1日後發  
本省 8月1日後着

第一號

萬歲館北村へ

大連發貴電ニ關シ滿洲國當局ノ眞意ヲ質シタル處内部的ニ  
モ何等理由アルカ如キ口吻ナルモ表面ハ過般源田力貴官ニ

説明シタルト同様ノ意見ニテ目下塩稅ニ關スル限り從來ノ  
方針ヲ變更スルノ意思無キ趣ナリ右ハ稽核總處<sup>(所カ)</sup>自體ハ國際  
關係アリトハ云ヘ從來南京政府ノ支配ヲ多分ニ受ケ來リ關

稅ト稍趣ヲ異ニスル所アリトノ主張ニ基クモノト認メラル  
從テ今後ニ於ケル見込ノ有無ハ豫斷シ難キモ本件ノ展開ヲ  
計ル見地ヨリ差當リ稽核總處ト關係債權國間ニ協議ヲ遂ケ  
債權國ヲ代表シテ直接滿洲國ト折衝スルノ建前ヲ以テ何ト  
カ商議ノ餘地ヲ作ルコト然ルヘキヤニ思料セラル

大臣、北平、奉天へ轉電セリ

意一應確メノ上何等展開ノ途アラハ教示願度シト電報シ來  
レルニ依リ滿洲國側ノ意向ヲ確メタル上上海總領事宛電報  
第一號ノ通り北村ニ回電シ置ケリ  
北平、上海、奉天へ轉電セリ

271 昭和7年8月2日

在上海 8月2日後發  
本省 8月2日後着  
総稅務司の當口および龍井村海關稅收送金に  
關する斡旋要請について

在中国國域内臨時代理公使より  
内田外務大臣宛(電報)

272 昭和7年8月12日

林閔東序警務局長より  
有田外務次官他宛  
中央銀行における新旧紙幣交換状況、小額票  
発行準備および為替業務開始について  
(8月17日接受)

關機高支第一三九七二號

昭和七年八月十二日

總稅務司ヨリ代理公使宛三十日附公文ヲ以テ左ノ通申越セ  
リ  
牛莊及龍井村ノ正金並ニ鮮銀各支店ニハ接收前ノ海關預金  
合計約二十萬海關兩ヲ保管中ナルカ右ハ支那稅關ニ歸屬ス  
ヘキモノナルニ付各銀行ニ對シ上海ニ送金方御盡力アリ度

シ

尙安東、牛莊、哈爾賓ノ各中國銀行支店ニモ接收前ノ海關  
預金合計百四十九萬三千海關兩保管シ居レルカ日本人顧問  
カ接收ニ關與セル事實ニ鑑ミ日本官憲ニ於テモ幾分ノ責任  
ヲ有セラル筋合ナレハ滿洲國當局ニ對シ中國銀行ノ上海  
送金ヲ許可スル様御交渉相成度シ  
北平、奉天、長春、牛莊、安東、哈爾賓、間島、南京へ轉  
電セリ

拓務次官殿  
内閣書記官長殿  
外務次官殿  
内務省警保局長殿  
指定廳府縣長官殿

關東廳警務局長

關 東軍 參 謀 長 殿  
關 東憲兵隊 司令官殿  
關 東州 在勤海軍 武官殿  
滿 鐵 調 查 課 長 殿  
在 上 海 事 務 官 殿  
管 下 各 警 察 署 長 殿 (除奉天兩  
大連各署)  
滿洲國 中央銀行 開業後ノ營業狀況  
狀態ヲ調査スルニ左ノ如シ

一、奉天票ト中央銀行票ノ交換狀況  
中央銀行ノ發行ニ係ル新票ト奉天票トノ交換ハ一日平均  
奉票百二十萬元ニシテ特產物出廻リ期迄ニハ漸次增加ス  
ルモノト觀測セラレアリ而シテ之等奉票ヲ中央銀行票ト  
交換スル理由ハ一般商農民等カ奉票ハ張學良ノ發行ニヨ  
ル不換紙幣ニシテ滿洲建國以來奉天票ニ對スル信用ヲ失  
墜セルニ因ルト一面奉票ノ新規發行ナキ爲メ漸次破損シ  
奉票ノ取引ヲ欣ハサル傾向等ニ基因スルモノトス

二、中央銀行小額票發行準備  
該銀行票ハ現在五圓十圓ノ二種ヲ發行シ居ルカ斯クテハ

在 プラゴヴェスチエンスク  
領事代理 豊原 幸夫 [印]  
外務大臣伯爵 内田 康哉殿  
黒河ニ於テ馬占山ノ發行シ居タル不正大洋票ニ閔  
スル件

今回黒河ヨリ引揚ケタル邦人ノ談ニ依レハ本年四月上旬馬  
占山ハ黒河到着以米從来ノ廣信公司大洋票ト極メテ類似セ

ル不換大洋票ヲ發行シ若シ之カ授受ヲ拒ムモノニ對シテハ  
嚴罰ニ處シ居タルカ一般商人ハ將來無價值トナルヘキコト

明カナル斯ル紙幣ニ依ル賣買ヲ好マサルモ拒否ニ由ル嚴罰  
ヲ恐レ詮方ナク使用シ居タル次第ナリ而シテ五月中旬馬力  
黒河ヲ去リテ後自称黒河警備司令涂惠德ハ以前同地ニ於テ  
流通シ居タル真正ナル大洋票ハ殆ント馬占山一味カ豪商ヨ  
リ徵發沒收シテ出發シタル爲差當り流通貨幣ナキヲ以テ馬  
ノ發行セル不換紙幣ヲ依然一般市民ニ流通ヲ強要シ居レル  
趣ナリ  
右不正大洋票添付何等御参考迄ニ送付ス  
(見当ラズ)

一般商民等ノ取引上不便ヲ來シ居ルニ鑑ミ今回十錢、二十錢、五十錢ノ小額票ヲ發行シ一般取引ニ便宜ヲ與フル  
事ニ決定シ目下發行準備中ナリ  
三、上海方面ニ對スル中央銀行ノ爲替關係  
中央銀行ノ對外爲替ハ取引銀行ノ設置ナキ爲一般商人等  
ノ爲替取引ニ不便ヲ來シ居ルヲ以テ今回中國銀行ヲ代理  
銀行トシテ一同五萬元ヲ限度トシテ上海爲替ヲ代行スル  
事ニ決定シ一般商人等ノ便ヲ計リツツアリ  
以上ノ狀態ナルヲ以テ上海トノ取引商人等ハ寧ロ中國銀行  
ヲ利用スルヲ便ナリトシ之ヲ利用スルモノ多キ傾向ナルヲ  
以テ中央銀行ハ近ク大連ニ支店ヲ設置シ滿洲國承認ト共ニ  
上海ニ支店ヲ設置スル計畫ナリト云フ  
以上

273 昭和7年8月23日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)  
正金銀行營口支店による保管稅收の上海送金  
承認要求に対する滿州國政府の回答について  
牛莊發閣下宛電報第一二一號ニ關シ  
第五二七號  
大橋ヨリ  
本省 8月23日後着

274 昭和7年8月23日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)  
黑河における馬占山發行の不正大洋票について  
機密公第八三號  
昭和七年八月十四日  
(8月29日接受)

機密公第八三號  
昭和7年8月14日 代理より  
内田外務大臣宛  
黒河における馬占山發行の不正大洋票について  
(8月29日接受)

以上

一般商民等ノ取引上不便ヲ來シ居ルニ鑑ミ今回十錢、二十錢、五十錢ノ小額票ヲ發行シ一般取引ニ便宜ヲ與フル  
事ニ決定シ目下發行準備中ナリ  
三、上海方面ニ對スル中央銀行ノ爲替關係  
中央銀行ノ對外爲替ハ取引銀行ノ設置ナキ爲一般商人等  
ノ爲替取引ニ不便ヲ來シ居ルヲ以テ今回中國銀行ヲ代理  
銀行トシテ一同五萬元ヲ限度トシテ上海爲替ヲ代行スル  
事ニ決定シ一般商人等ノ便ヲ計リツツアリ  
以上ノ狀態ナルヲ以テ上海トノ取引商人等ハ寧ロ中國銀行  
ヲ利用スルヲ便ナリトシ之ヲ利用スルモノ多キ傾向ナルヲ  
以テ中央銀行ハ近ク大連ニ支店ヲ設置シ滿洲國承認ト共ニ  
上海ニ支店ヲ設置スル計畫ナリト云フ  
以上

昭和7年8月23日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛

「中央銀行創立後ノ経過」送付について

(8月31日接受)

機密公第五二七號

昭和七年八月二十三日

在長春

總領事代理 田中 正一〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

滿洲中央銀行創立後ノ経過ニ關スル件

滿洲國中央銀行山成副總裁ヨリ松岡代議士ニ送付セル別紙

「中央銀行創立後ノ経過」寫何等御参考迄送付ス

本信寫送付先 在華公使 北平 奉天 吉林 哈爾賓

齊齊哈爾

(別  
紙)

滿洲中央銀行創立後ノ経過

第一 滿洲中央銀行ノ使命

齊齊哈爾

第二 滿洲中央銀行ノ使命

齊齊哈爾

第三 滿洲中央銀行ノ使命

齊齊哈爾

第四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五 舊軍閥時代ニ於ケル官立銀行濫用ノ實況

齊齊哈爾

第六 满洲中央銀行設立後約二ヶ月ヲ経過シタル今日迄ノ状況大略左ノ如シ

齊齊哈爾

第七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八 满洲中央銀行設立後約二ヶ月ヲ経過シタル今日迄ノ状況大略左ノ如シ

齊齊哈爾

第九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第二十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第三十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第四十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第五十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第六十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第七十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第八十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第九十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十四 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十五 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十六 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十七 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十八 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百十九 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百二十 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百二十一 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百二十二 满洲中央銀行開業後ノ経過

齊齊哈爾

第一百二十三 满洲中央銀行開業後ノ経過

滑ニ授受セラレ舊紙幣ト新紙幣間ノ價格ノ法定比率

(新舊紙幣) 一二九、四四八、四五七圓九八

ハ全滿洲國何レノ地方ニ於テモ能ク徹底シテ實行セ

ラレ國幣ノ價值ハ開業後約二ヶ月動搖ヲ見ス其ノ間

舊紙幣ハ漸次ニ回收セラレテ新紙幣ニ代ル傾向ヲ示

シ通貨ハ全ク安定シ各地到ル處新幣制ノ利便ヲ賞讃

シツツアリ

## 二、紙幣發行ノ狀況

1 舊紙幣繼承高 一四二、八四七、二三三圓六七

即チ開業當初ノ現在高ニシテ舊行號ノ發行シタル十

五種類ノ紙幣ニ對シ政府ノ定メタル國幣ニ對スル比

率ニヨリ換算シタル高ナリ

2 現在發行高(八月十四日現在)

發行高(新舊紙幣) 一二九、四四八、四五七圓九八

正貨準備高(銀及金) 七四、一〇九、〇九五圓八三

保證準備高 五五、三三九、三六二圓一五

3 發行高增減

開業後發行高ノ增減左ノ如シ

七月一日紙幣繼承高一四二、八四七、一三三圓六七

八月十四日現在發行高

右ノ如ク開業後約一ヶ月半ニシテ開業當初ノ發行高ニ比シ一三、三九八、七七五圓六九ノ收縮ヲ來セリ  
滿洲國內ニ於ケル紙幣ハ特產物(農產物)ノ集散季節ニヨリ増減ス即チ冬期農產物出廻期ニ於テ增加シ農家ノ物資需要時期即チ夏季ニ於テ縮少ス其ノ増減ノ差約二割五分ニシテ開業ノ際ハ收縮ノ時季ニ屬ス  
三、業務上ノ施設並經濟財政上ニ及ホセル效果  
1 開業以來業務上施設實行シタル大要左ノ如シ  
イ金利ノ低減  
ロ 内外爲替ノ調理  
ハ 金融ノ平衡

滿洲ニ於ケル金利ハ由來非常ナル高率ニシテ且ツ各地爲替取引ハ通貨不統一ノ爲メ國內ニ於テモ各地間恰モ外國爲替ノ如キ觀ヲ呈シ非常ニ高率ナル爲替料ヲ要シ從テ金融ノ疏通ヲ缺キ金利ノ如キモ甚シク不平均ニシテ殊ニ北滿地方ハ最モ金利ノ高率ナルニ苦シムノ狀態ナリシヲ以テ滿洲中央銀行ハ開業以來統

一セラレタル通貨制度ノ下ニ爲替料ヲ低減シ金利ノ引下ケラ行ヒ各地本支店同一ノ利率ニ改メ以テ金融ノ疏通ヲ便ニシ殊ニ滿洲國全輸出額ノ六割ヲ占ムル特產物ニ對シテハ低利資金ノ供給ヲ爲シ以テ產業ノ發達ニ資セントシツツアリ

## 2 經濟上ノ施設及影響

從來奉天、吉林、黑龍江ノ三省ハ相鼎立シテ中央銀行ヲ有シ經濟上何レモ一國ノ觀ヲ呈シ而モ通貨不統一ノ結果省內ニ於テモ各地物價ノ建值ヲ異ニシ且之等ノ通貨ノ價值ハ變動常ナク爲ミニ商取引ニ多大ノ障礙ヲ與ヘタリ然ルニ通貨ハ統一セラレ且ツ安定シタルヲ以テ從來ノ弊害ハ一掃セラレ漸次物價ノ建值毛國幣ニ統一セラルルノ傾向ヲ馴致スルニ至リ各地

モ物價ノ建值變更ニ就テ商議中ナリ  
北滿ニ於ケル黑龍江省官銀號ハ官憲ノ壓迫ニヨリ經營困難ニ陥リ昨年來支拂ヲ停止シ閉店中ニシテ其ノ發行紙幣ハ暴落シ全地方經濟界ハ匪賊ノ跳梁ト共ニ極度ノ混亂ニ陥レルヲ以テ他ノ官銀號ト同時ニ合併

ハ以上ノ結果政府ノ歲計ニ於テ赤字ノ問題モナク從テ財政上ヨリ中央銀行ヲ壓迫シテ濫リニ紙幣ヲ增

トスルノ兆アリ加フルニ政府ハ海關並ニ鹽稅ノ接收ヲ斷行シ各種租稅ノ財源豊富且ツ鞏固トナレリ  
3 財政上ニ及ホセル影響左ノ如シ  
イ從來租稅收入ハ通貨ノ極端ナル騰落ニヨリ極メテ不安定ナルヲ免レサリシカ通貨ノ安定ニヨリ確定的ノモノトナレリ  
ロ 經濟界ノ安定ニ依リ各方面產業商況活氣ヲ呈セン

トルノ兆アリ加フルニ政府ハ海關並ニ鹽稅ノ接収ヲ斷行シ各種租稅ノ財源豊富且ツ鞏固トナレリ  
ヲ以テ財政ハ極メテ安固トナレリ

發セシムルカ如キ憂ヒナキカ故ニ通貨ノ基礎鞏固  
トナリ銀行ハ專ラ産業ノ開發貿易ノ振興ニ資スル  
ヲ得政府財政ノ確定ト兩々相俟テ財政金融ノ發達  
ヲ期シ得ルニ至レリ

#### 第四 貨幣制度

##### 一、制度ノ大要

法制ノ大要左ノ如シ

1 貨幣發行ノ權ハ政府ニ屬シ滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ

行ハシム

2 貨幣ノ單位ヲ圓トシ一圓ハ純銀二三、九一グラムト

ス

3 本位タル銀圓ニ對シ貨幣ヲ鑄造セス滿洲中央銀行ノ

發行紙幣及補助貨ヲ以テ法貨トス

4 紙幣ノ發行額ニ對シテハ三分ノ一以上ノ銀及金ノ準

備ヲ保有スル外殘餘ニ對シ保證準備トシテ政府證券

及商業手形ヲ保有スルヲ要ス

##### 二、制度ノ運用

上記ノ如ク法制上兌換制度ニ非サルモ紙幣ノ發行ニ對  
シテハ正貨並ニ保證準備ヲ置クコト各國ノ兌換制度ニ

第五 舊軍閥時代ニ於ケル官立銀行濫用ノ實況  
一、中央並ニ各省ノ政費（主トシテ軍費）其他軍閥關係者ノ  
權力並ニ地位ヲ維持スル爲メノ費用ハ勝手ニ銀行ニ命  
シ紙幣増發ニヨリ之ヲ支辨セシメタル爲メ其ノ額數十  
億ノ巨額ニ上リ紙幣ノ價値ハ暴落シ僅カ二百分ノ二内  
外ノ價値ヲ保ツニ過キサルモノアルニ至レリ（奉天票  
ノ如キ其ノ六十圓ヲ以テ國幣一圓ニ換算ス）  
二、銀行ハ官憲ヲ利用シ増發紙幣ヲ以テ毎年特產物（農產  
物）ヲ一手ニ買收シ其ノ紙幣カ農民ノ物資購買ノ爲ニ  
市中ヘ出廻ル際市中ハ紙幣ノ洪水トナリ紙幣價値ハ暴  
落スルヲ常トス此ノ時季ニ於テ銀行ハ新タル紙幣ヲ

發行シテ之ヲ以テ暴落セル紙幣ヲ買入レ莫大ナル利益  
ヲ得之ヲ官憲並ニ銀行當事者間ニ分配ス

此ノ如クシテ銀行ハ其ノ經營事業自體ニ於テハ概シテ  
莫大ノ損失ヲ爲セルニ拘ラス自行紙幣ノ下落ニ於テ利

スルヲ常態ト爲セリ

三、以上ノ結果舊行號ノ發行紙幣種類ハ十五種ノ多キニ上  
リ而モ各紙幣ノ相場ハ日々騰落シ爲メニ各人ハ殆ト適  
從スル處ヲ知ラス其ノ間各都市ニ於テ無數ノ錢商（錢  
舖）存在シ日々紙幣ノ賣買交換ヲ爲シ以テ一種ノ營業  
ト爲スニ至レリ

昭和7年8月29日 林関東庁警務局長より  
有田外務次官他宛

日本にて製造の中央銀行紙幣長春に到着について

（9月3日接受）

關機高支第一五三九四號

昭和七年八月二十九日

關東廳警務局長

以上

277

昭和7年9月5日 在南京上村總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

拓務次官殿

據レルモノト異ルコトナシ銀行ハ此準備ニ依リ通貨ノ  
安定ヲ保持セシムルモノニシテ左ノ方法ニ依リ發行制  
度ヲ運用ス

1 通貨ノ統制

2 發行準備ノ充實

3 在外資金ニ依ル爲替ノ調理

4 正貨準備ノ活用

要スルニ銀本位管理制度ナリトス

第五 舊軍閥時代ニ於ケル官立銀行濫用ノ實況

一、中央並ニ各省ノ政費（主トシテ軍費）其他軍閥關係者ノ  
權力並ニ地位ヲ維持スル爲メノ費用ハ勝手ニ銀行ニ命

シ紙幣増發ニヨリ之ヲ支辨セシメタル爲メ其ノ額數十  
億ノ巨額ニ上リ紙幣ノ價値ハ暴落シ僅カ二百分ノ二内  
外ノ價値ヲ保ツニ過キサルモノアルニ至レリ（奉天票  
ノ如キ其ノ六十圓ヲ以テ國幣一圓ニ換算ス）

二、銀行ハ官憲ヲ利用シ増發紙幣ヲ以テ毎年特產物（農產  
物）ヲ一手ニ買收シ其ノ紙幣カ農民ノ物資購買ノ爲ニ  
市中ヘ出廻ル際市中ハ紙幣ノ洪水トナリ紙幣價値ハ暴  
落スルヲ常トス此ノ時季ニ於テ銀行ハ新タル紙幣ヲ

外務次官殿

内務省警保局長殿

滿洲國中央銀行紙幣到着

滿洲國中央銀行カ日本内閣印刷局ニ製造依頼中ノ同行紙幣  
三百萬元ハ八月廿三日午前九時大阪商船河南丸ニテ東京鶴  
見港ヨリ大連港ニ入港陸揚シトラックニテ大連驛ニ運搬同  
九時卅分發列車ニテ發送翌廿四日午後一時無事長春ニ到着  
セリ  
該紙幣ノ內容ニ就テハ極秘ニ附サレ居ルカ滿鐵當局ノ談ニ  
依レハ未タサインヲ了シ居ラス未發行紙幣ノ模様ニテ鐵道  
省並ニ商船會社ニ於テモ紙幣トシテ取扱ハス貴重品トシテ  
運搬シ一個四才（一才一尺四方）目方十八貫目個數ハ六拾個  
ナリ云々

### 三 滿州国財政関係

南京 9月5日後発  
本省 9月5日後着

正金銀行當口支店の上海送金に関する満州国  
政府声明案  
臣宛第五二号

第六一四號  
本官發支宛電報

第五八三號

奉天 9月8日後発  
本省 9月8日後着

外交部長ヨリ代理公使宛二日附公文ヲ以テ満洲國ノ鹽稅接  
收ニ關スル從來ノ主張ヲ詳細敷衍説明シタル上四月ヨリ八

月迄ノ外債償還ニ充當スヘキ東北鹽稅ハ百八萬九千元ニ達

スル處大口ノ鹽稅擔保借款ニシテ九月中ニ償還スヘキモノ

アルニ付東北側ヲシテ過去及現在ニ於テ中央ニ送金スヘキ  
鹽稅ヲ至急送金セシムルト共ニ鹽稅徵收機關及職權ヲ回復

セシメラレ度旨申越セリ原文郵送ス

支、北平、奉天、長春へ轉電セリ

278 昭和7年9月8日 在滿州國武藤大使より

内田外務大臣宛(電報)

正金銀行當口支店の上海送金に伴う損失補填誓  
約に関する満州国政府との協議結果について

別電 九月八日発在満州國武藤大使より内田外務大

第五一號  
貴電第一一號二關シ

六日森島他用長春出張ノ際外交、財政兩部ト協議セシメタ  
ル處

(一)兩部トモ日滿現在ノ關係ニ鑑ミ正金トシテハ條例等ノ問  
題ヲ超越シ政治的見地ヨリ本件ヲ解決スルコト至當ナリ  
殊ニ外債擔保部分トシテ送金スル際日本政府カ滿洲國側  
ヲ支持スル以上損失補償ノ一札ヲ入ルルモ何等損失ノ懸  
念ナキ次第ナリトノ意向ニシテ長春政府トシテハ既ニ五  
日本件ハ當分此ノ儘打捨置クコトニ決定済ノ後ナリシヲ  
以テ本件再協議ニ付多大ノ難色アリタルモ六七兩日ニ亘  
リ種々懇談ノ結果貴電第一二號「二札」以下ヲ「今  
後本件ニ關シ貴國政府ニ對シ御迷惑相懸ケ申間數此ノ段  
得貴意候」ト改ムルコトニ折合ヒタリ

(二)右ノ外財政部内ニ於テハ曩ニ大連正金保管ノ稅收ヲ總稅  
務司宛送金シタル際外債支拂ニ關シ長春政府ノ方針ヲ聲  
明シ且關係方面ニ通知シ居ル關係上牛莊正金保管金ノ送

附ハ前記既定ノ方針ヲ沒却スル處アリトノ意見モアリタ  
ル處右ノ點ニ付本件送金ノ際別電第五二號ノ聲明書ヲ發  
表シ長春發閣下宛電報第四ニ九號ト同様關係方面ニ通知  
スルコトニ決定セル趣ナリ

(三)右様ノ次第二テ前記一札ノ辭句修正ハ森島ニ於テ關係諸  
方面ト數次折衝ノ結果漕着ヶ得タル所ニシテ又長春政府  
トシテモ最大限度ノ讓歩ノ趣ニテ同政府ニ對シ之以上ノ  
讓歩ヲ求ムルハ到底困難ナルヘク且本件一札中ニハ別段  
損失補償等ノ辭句ヲ用ヒ居ラサル次第ニモアリ是非トモ  
右ニテ折合フ様正金ニ御説示相成度ク尙長春政府トシテ  
ハ本件一札ニ對シ正金同意アリ次第送金手續ヲ了シ前記

聲明ヲ發シタキ趣ニ付結果御回電アリタシ  
本電別電ト共ニ支、北平、南京、間島、牛莊、安東、長春  
ヘ轉電セリ

編注 本声明案は九月十五日、外交部総長の名で発表され  
た。

(別電)

279 昭和7年9月8日 在奉天森島總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

旧東北政権の債務整理に關し急速解決のため

委員会設置との大橋外交部次長内話について

长春 9月9日後発

本省 9月9日後着

第一二四八號

九月五日附機密合第六六二號ニ關シ

本件債務整理ハ從來省政府限りニテ處理シ來リ最近長春政府ニ移管セラレタル關係上長春政府ニ於テ從來ノ經過等ニ關シ明瞭ヲ缺ク點アルヤニ思考セラレタルヲ以テ六日本官長春ニ出張駒井、大橋其他關係ノ向ニ對シ委細説明ノ上急速處理方懇談シタルカ大橋ヨリ外交部内ニ關係官ヲ加ヘタル委員會ヲ設ケ成ルヘク速ニ解決ニ着手スルコトトスヘキ旨内話セリ

駐滿全權へ轉報シ、北平、支、長春へ轉電セリ

280 昭和7年9月9日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛(電報)

滿州国全国商工會議の終了および同會議を利用した中央銀行による國幣の勢力拡充策について

外務大臣宛拙電第四九三號ニ關シ  
本官發駐滿全權宛電報

第五八一號

外務大臣宛拙電第四九三號ニ關シ

商工會議ハ豫定ノ通本月一日實業部主催ノ下ニ開催セラレ政府委員及各地商會代表七十名參加シ劈頭會議ノ構成二日政府諮詢ニ對スル答申五日ヨリ本會議及委員會ニ移リ各地ノ提案ヲ審議シ去八日終了セルカ其議題ハ

(一)金融復興問題

(二)治安維持問題

(三)稅制ノ整理統一

ノ三種ニ綜合シ得ヘク各代表豫期以上ニ自由ニ所見ヲ述ヘ熱心ナル論議ヲ重ねタル趣ニシテ元來今回ノ會議ノ眼目ハ事變後ニ於ケル一般金融救濟施設ヲ實行スル下準備トシテ剝切ナル提案ヲ得ンカ爲豫メ民意ノ趣向ヲ承知シ置カントスルニアル處實業部トシテハ所期ノ目的ヲ充分達成シ新國家ノ威信ヲ地方ニ徹底セシメタルノミナラス各種ノ有力ナ

ル參考資料ヲ蒐集シ得タル次第ナリトテ其成功ヲ喜ヒ目下右會議ノ結果ニ基キ今後ノ根本對策確立ニ銳意努力シ居レリ

尙會議ニ當リ實業部ト協力シ最モ能ク之ヲ利用シタルハ中央銀行ニシテ右ハ國幣ノ勢力擴充ニ相當效果アルヘク又實業部ハ本年農閑期ニ於テ本件ト同一趣旨ニ出ツル全國農務會議ヲ召集スル計畫アル趣ナリ委細郵報全權ヨリ奉天ニ轉報アリ度シ大臣、支へ轉電セリ

281 昭和7年9月12日 在中國有吉(明)公使より  
内田外務大臣宛(電報)

正金銀行營口支店の上海送金は對中國政策の大局上より急速実行すべき旨意見具申

上海 9月12日後発

本省 9月12日後着

第一一六二號(極秘)  
往電第一一六一號ニ關シ

一、本件稅收引渡ニ對シ滿洲國側ニ强硬ナル反對アル事情ハ

充分了解シ居ル處南京側ニモ無理カラヌ事情アルノミナラス焦眉ノ急ニ迫ラレ居ル財政難ノ際我方ノ斡旋ニ依リ其希望ヲ達成シ本件送金セラルニ於テハ海關問題ニ對スル支那側ノ非常手段ノ防止ノ爲ニハ勿論滿洲國承認ニ對スル支那側ノ態度ヲ緩和スル上ニモ相當效果アルノミナラス萬一飽迄本件送金ヲ禁止スル場合ニハ支那側ハ本件ハ海關接收前ノ稅收ニシテ總稅務司ノ命ニテ預金シアルモノナレハ當然海關ニ歸屬スヘキモノナリト强硬ニ主張シ居ル次第モアルニ付或ハ從來仄カシ來レル通我方團匪賠償金ノ支拂拒絶延テハ關稅擔保外債ノ支拂停止等ヲ宣言シ關係列國ノ輿論ヲ喚起スル等ノ手段ニ訴フモ計ラレス之カ爲我方ノ立場ニ相當惡影響ヲ及ホスヘキ危險アリト存セラル之ニ加フルニ

本件送金ハ金額モ少ク引續キ正金銀行ニ保管中ノモノニモアリ滿洲國側ハ償金ノ場合ト同様外債支拂部分トシテ之カ送金方ヲ許可スルモ何等財政上實質的ニ損害ヲ蒙ラサル次第ナレハ本件ニ付テハ此ノ際特ニ大局上ヨリ觀テ政治的考量ヲ加ヘラレ支那側希望ノ急速達成方ニ付テハ我方ニ於テ斡旋セラル様御高配ヲ煩シ度ク何分ノ儀御回示ヲ請フ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

282 昭和7年9月13日 在中国有吉公使より

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

本省 9月13日後着 上海 9月13日後発

本省 9月13日後着 上海 9月13日後発

南京發大臣宛第五九三號ニ關シ 第一六六號

同様ノ報道ハ十一日南京發申時電報トシテ「チヤイナ、プレス」ニ掲載セラレタルカ十三日英字紙ニ掲載ノ路透通信ニ依レハ宋子文ハ右報道ヲ否定シ英米佛ニ對シテハ滿洲鹽

稅押收ノ結果外債支拂ニ困難ヲ感スル趣ヲ以テ適當措置方申入レタルモ九月分外債支拂ノ停止ハ考慮シ居ラス現ニ鹽稅總所ニ對シ九月分ノ支拂命令ヲ發シアル次第ナリ國民政府ハ今後モ鹽稅借款ノ信用維持ノ爲努力スヘキモ鹽稅稽核所閉鎖後モ外債負擔部分ノミハ送金スヘシトノ累次ノ聲明

駐満全權、北平、長春、南京へ轉電セリ

全權ヨリ奉天へ轉報アリ度シ

283 昭和7年9月19日 在中国有吉公使より

内田外務大臣宛（電報）

稅收送金に關し總稅務司の正金銀行當口支店 分受領通告および朝鮮・中國兩行分への斡旋

依頼について

本省 9月19日後着 上海 9月19日後発

往電第一一八四號ニ關シ 第一一一九號

「メーズ」ハ十六日附本使宛書翰ヲ以テ牛莊海關預金ノ受領ヲ通知シテ我方ノ斡旋ヲ謝シ右斡旋カ好感ヲ與ヘタル旨ヲ附言セルカ最後ニ鮮銀及中國銀行ノ預金ノ送金方ニ關シテモ斡旋方ヲ希望シ居レリ就テハ往電第一一六二號ノ件此ノ

上共何分ノ御配慮ヲ請フ  
284 昭和7年10月4日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

保管稅收の満州國引渡しに關し朝鮮銀行より

總稅務司への回答振り回示方請訓

本省 10月4日後着 長春 10月4日後發

第六七號 本官發駐滿全權宛電報

第九四號

安東及龍井村鮮銀支店カ其地ノ海關預金ヲ滿洲國側ニ引渡シタルニ對シ總稅務司ヨリ八月二十三日附ヲ以テ鮮銀總裁

ニ又七月三十日附ヲ以テ龍井村鮮銀支配人ニ抗議ノ次第アリタル處（來翰寫郵報ス）今般當地支店長ハ本店ヨリノ命令ニ依リ滿洲國財政總長ニ對シ右書狀ニ通添附ノ上之カ回答振指圖受ケ度キ旨申出テ財政部當局ハ三日口頭ヲ以テ右ハ

滿洲國ヨリ執拗ニ強制セラレ如何トモ致シ難キ事情ニ立至

リタル結果ナル事ヲ回答シテ然ル可キ旨答ヘタル趣ナルカ

第一一二二八號（至急）  
往電第一一八九號ニ關シ

285 昭和7年10月7日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州海關接收前の稅收送金に我が方の好意表示は宋財政部長等との交渉上好都合との意見具申

本省 10月7日後着 上海 10月7日後發

支那側カ滿洲海關接收前ノ稅收ノ引渡シヲ重要視シ我方ノ斡旋ニ望ミテ囑シ居ルコトハ往電第一一六二號及南京發閣下宛電報第六七五號宋子文ノ口吻ニ依リ御承知ノ如ク此ノ點ニ關シ我方ヨリ相當ノ好意ヲ示スコトハ今後ニ於ケル宋子文等トノ接觸上好都合ナリト存セラル處宋部長ト明八

二拘ラス日本軍部カ債權者ニ歸屬スヘキ外債資金ヲ過去六ヶ月ニ亘リ差押ヘ居ルハ極メテ不公平ナリト述ヘタル趣ナリ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

南京發大臣宛第五九三號ニ關シ 第一六六號

同様ノ報道ハ十一日南京發申時電報トシテ「チヤイナ、プレス」ニ掲載セラレタルカ十三日英字紙ニ掲載ノ路透通信ニ依レハ宋子文ハ右報道ヲ否定シ英米佛ニ對シテハ滿洲鹽

稅押收ノ結果外債支拂ニ困難ヲ感スル趣ヲ以テ適當措置方申入レタルモ九月分外債支拂ノ停止ハ考慮シ居ラス現ニ鹽稅總所ニ對シ九月分ノ支拂命令ヲ發シアル次第ナリ國民政府ハ今後モ鹽稅借款ノ信用維持ノ爲努力スヘキモ鹽稅稽核所閉鎖後モ外債負擔部分ノミハ送金スヘシトノ累次ノ聲明

上共何分ノ御配慮ヲ請フ  
284 昭和7年10月4日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

保管稅收の満州國引渡しに關し朝鮮銀行より

總稅務司への回答振り回示方請訓

本省 10月4日後着 長春 10月4日後發

第六七號 本官發駐滿全權宛電報

第九四號

安東及龍井村鮮銀支店カ其地ノ海關預金ヲ滿洲國側ニ引渡シタルニ對シ總稅務司ヨリ八月二十三日附ヲ以テ鮮銀總裁

ニ又七月三十日附ヲ以テ龍井村鮮銀支配人ニ抗議ノ次第アリタル處（來翰寫郵報ス）今般當地支店長ハ本店ヨリノ命令ニ依リ滿洲國財政總長ニ對シ右書狀ニ通添附ノ上之カ回答振指圖受ケ度キ旨申出テ財政部當局ハ三日口頭ヲ以テ右ハ

滿洲國ヨリ執拗ニ強制セラレ如何トモ致シ難キ事情ニ立至

リタル結果ナル事ヲ回答シテ然ル可キ旨答ヘタル趣ナルカ

第一一二二八號（至急）  
往電第一一八九號ニ關シ

285 昭和7年10月7日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州海關接收前の稅收送金に我が方の好意表示は宋財政部長等との交渉上好都合との意見具申

本省 10月7日後着 上海 10月7日後發

支那側カ滿洲海關接收前ノ稅收ノ引渡シヲ重要視シ我方ノ斡旋ニ望ミテ囑シ居ルコトハ往電第一一六二號及南京發閣下宛電報第六七五號宋子文ノ口吻ニ依リ御承知ノ如ク此ノ點ニ關シ我方ヨリ相當ノ好意ヲ示スコトハ今後ニ於ケル宋子文等トノ接觸上好都合ナリト存セラル處宋部長ト明八

二拘ラス日本軍部カ債權者ニ歸屬スヘキ外債資金ヲ過去六ヶ月ニ亘リ差押ヘ居ルハ極メテ不公平ナリト述ヘタル趣ナリ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

南京發大臣宛第五九三號ニ關シ 第一六六號

同様ノ報道ハ十一日南京發申時電報トシテ「チヤイナ、プレス」ニ掲載セラレタルカ十三日英字紙ニ掲載ノ路透通信ニ依レハ宋子文ハ右報道ヲ否定シ英米佛ニ對シテハ滿洲鹽

稅押收ノ結果外債支拂ニ困難ヲ感スル趣ヲ以テ適當措置方申入レタルモ九月分外債支拂ノ停止ハ考慮シ居ラス現ニ鹽稅總所ニ對シ九月分ノ支拂命令ヲ發シアル次第ナリ國民政府ハ今後モ鹽稅借款ノ信用維持ノ爲努力スヘキモ鹽稅稽核所閉鎖後モ外債負擔部分ノミハ送金スヘシトノ累次ノ聲明

上共何分ノ御配慮ヲ請フ  
284 昭和7年10月4日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

保管稅收の満州國引渡しに關し朝鮮銀行より

總稅務司への回答振り回示方請訓

本省 10月4日後着 長春 10月4日後發

第六七號 本官發駐滿全權宛電報

第九四號

安東及龍井村鮮銀支店カ其地ノ海關預金ヲ滿洲國側ニ引渡シタルニ對シ總稅務司ヨリ八月二十三日附ヲ以テ鮮銀總裁

ニ又七月三十日附ヲ以テ龍井村鮮銀支配人ニ抗議ノ次第アリタル處（來翰寫郵報ス）今般當地支店長ハ本店ヨリノ命令ニ依リ滿洲國財政總長ニ對シ右書狀ニ通添附ノ上之カ回答振指圖受ケ度キ旨申出テ財政部當局ハ三日口頭ヲ以テ右ハ

滿洲國ヨリ執拗ニ強制セラレ如何トモ致シ難キ事情ニ立至

リタル結果ナル事ヲ回答シテ然ル可キ旨答ヘタル趣ナルカ

第一一二二八號（至急）  
往電第一一八九號ニ關シ

285 昭和7年10月7日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州海關接收前の稅收送金に我が方の好意表示は宋財政部長等との交渉上好都合との意見具申

本省 10月7日後着 上海 10月7日後發

支那側カ滿洲海關接收前ノ稅收ノ引渡シヲ重要視シ我方ノ斡旋ニ望ミテ囑シ居ルコトハ往電第一一六二號及南京發閣下宛電報第六七五號宋子文ノ口吻ニ依リ御承知ノ如ク此ノ點ニ關シ我方ヨリ相當ノ好意ヲ示スコトハ今後ニ於ケル宋子文等トノ接觸上好都合ナリト存セラル處宋部長ト明八

二拘ラス日本軍部カ債權者ニ歸屬スヘキ外債資金ヲ過去六ヶ月ニ亘リ差押ヘ居ルハ極メテ不公平ナリト述ヘタル趣ナリ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

南京發大臣宛第五九三號ニ關シ 第一六六號

同様ノ報道ハ十一日南京發申時電報トシテ「チヤイナ、プレス」ニ掲載セラレタルカ十三日英字紙ニ掲載ノ路透通信ニ依レハ宋子文ハ右報道ヲ否定シ英米佛ニ對シテハ滿洲鹽

稅押收ノ結果外債支拂ニ困難ヲ感スル趣ヲ以テ適當措置方申入レタルモ九月分外債支拂ノ停止ハ考慮シ居ラス現ニ鹽稅總所ニ對シ九月分ノ支拂命令ヲ發シアル次第ナリ國民政府ハ今後モ鹽稅借款ノ信用維持ノ爲努力スヘキモ鹽稅稽核所閉鎖後モ外債負擔部分ノミハ送金スヘシトノ累次ノ聲明

上共何分ノ御配慮ヲ請フ  
284 昭和7年10月4日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

保管稅收の満州國引渡しに關し朝鮮銀行より

總稅務司への回答振り回示方請訓

本省 10月4日後着 長春 10月4日後發

第六七號 本官發駐滿全權宛電報

第九四號

安東及龍井村鮮銀支店カ其地ノ海關預金ヲ滿洲國側ニ引渡シタルニ對シ總稅務司ヨリ八月二十三日附ヲ以テ鮮銀總裁

ニ又七月三十日附ヲ以テ龍井村鮮銀支配人ニ抗議ノ次第アリタル處（來翰寫郵報ス）今般當地支店長ハ本店ヨリノ命令ニ依リ滿洲國財政總長ニ對シ右書狀ニ通添附ノ上之カ回答振指圖受ケ度キ旨申出テ財政部當局ハ三日口頭ヲ以テ右ハ

滿洲國ヨリ執拗ニ強制セラレ如何トモ致シ難キ事情ニ立至

リタル結果ナル事ヲ回答シテ然ル可キ旨答ヘタル趣ナルカ

第一一二二八號（至急）  
往電第一一八九號ニ關シ

285 昭和7年10月7日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州海關接收前の稅收送金に我が方の好意表示は宋財政部長等との交渉上好都合との意見具申

本省 10月7日後着 上海 10月7日後發

支那側カ滿洲海關接收前ノ稅收ノ引渡シヲ重要視シ我方ノ斡旋ニ望ミテ囑シ居ルコトハ往電第一一六二號及南京發閣下宛電報第六七五號宋子文ノ口吻ニ依リ御承知ノ如ク此ノ點ニ關シ我方ヨリ相當ノ好意ヲ示スコトハ今後ニ於ケル宋子文等トノ接觸上好都合ナリト存セラル處宋部長ト明八

二拘ラス日本軍部カ債權者ニ歸屬スヘキ外債資金ヲ過去六ヶ月ニ亘リ差押ヘ居ルハ極メテ不公平ナリト述ヘタル趣ナリ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

南京發大臣宛第五九三號ニ關シ 第一六六號

同様ノ報道ハ十一日南京發申時電報トシテ「チヤイナ、プレス」ニ掲載セラレタルカ十三日英字紙ニ掲載ノ路透通信ニ依レハ宋子文ハ右報道ヲ否定シ英米佛ニ對シテハ滿洲鹽

稅押收ノ結果外債支拂ニ困難ヲ感スル趣ヲ以テ適當措置方申入レタルモ九月分外債支拂ノ停止ハ考慮シ居ラス現ニ鹽稅總所ニ對シ九月分ノ支拂命令ヲ發シアル次第ナリ國民政府ハ今後モ鹽稅借款ノ信用維持ノ爲努力スヘキモ鹽稅稽核所閉鎖後モ外債負擔部分ノミハ送金スヘシトノ累次ノ聲明

上共何分ノ御配慮ヲ請フ  
284 昭和7年10月4日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

保管稅收の満州國引渡しに關し朝鮮銀行より

總稅務司への回答振り回示方請訓

本省 10月4日後着 長春 10月4日後發

第六七號 本官發駐滿全權宛電報

第九四號

安東及龍井村鮮銀支店カ其地ノ海關預金ヲ滿洲國側ニ引渡シタルニ對シ總稅務司ヨリ八月二十三日附ヲ以テ鮮銀總裁

ニ又七月三十日附ヲ以テ龍井村鮮銀支配人ニ抗議ノ次第アリタル處（來翰寫郵報ス）今般當地支店長ハ本店ヨリノ命令ニ依リ滿洲國財政總長ニ對シ右書狀ニ通添附ノ上之カ回答振指圖受ケ度キ旨申出テ財政部當局ハ三日口頭ヲ以テ右ハ

滿洲國ヨリ執拗ニ強制セラレ如何トモ致シ難キ事情ニ立至

リタル結果ナル事ヲ回答シテ然ル可キ旨答ヘタル趣ナルカ

第一一二二八號（至急）  
往電第一一八九號ニ關シ

285 昭和7年10月7日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州海關接收前の稅收送金に我が方の好意表示は宋財政部長等との交渉上好都合との意見具申

本省 10月7日後着 上海 10月7日後發

支那側カ滿洲海關接收前ノ稅收ノ引渡シヲ重要視シ我方ノ斡旋ニ望ミテ囑シ居ルコトハ往電第一一六二號及南京發閣下宛電報第六七五號宋子文ノ口吻ニ依リ御承知ノ如ク此ノ點ニ關シ我方ヨリ相當ノ好意ヲ示スコトハ今後ニ於ケル宋子文等トノ接觸上好都合ナリト存セラル處宋部長ト明八

二拘ラス日本軍部カ債權者ニ歸屬スヘキ外債資金ヲ過去六ヶ月ニ亘リ差押ヘ居ルハ極メテ不公平ナリト述ヘタル趣ナリ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

南京發大臣宛第五九三號ニ關シ 第一六六號

同様ノ報道ハ十一日南京發申時電報トシテ「チヤイナ、プレス」ニ掲載セラレタルカ十三日英字紙ニ掲載ノ路透通信ニ依レハ宋子文ハ右報道ヲ否定シ英米佛ニ對シテハ滿洲鹽

稅押收ノ結果外債支拂ニ困難ヲ感スル趣ヲ以テ適當措置方申入レタルモ九月分外債支拂ノ停止ハ考慮シ居ラス現ニ鹽稅總所ニ對シ九月分ノ支拂命令ヲ發シアル次第ナリ國民政府ハ今後モ鹽稅借款ノ信用維持ノ爲努力スヘキモ鹽稅稽核所閉鎖後モ外債負擔部分ノミハ送金スヘシトノ累次ノ聲明

上共何分ノ御配慮ヲ請フ  
284 昭和7年10月4日 在長春田中總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

保管稅收の満州國引渡しに關し朝鮮銀行より

總稅務司への回答振り回示方請訓

本省 10月4日後着 長春 10月4日後發

第六七號 本官發駐滿全權宛電報

第九四號

安東及龍井村鮮銀支店カ其地ノ海關預金ヲ滿洲國側ニ引渡シタルニ對シ總稅務司ヨリ八月二十三日附ヲ以テ鮮銀總裁

ニ又七月三十日附ヲ以テ龍井村鮮銀支配人ニ抗議ノ次第アリタル處（來翰寫郵報ス）今般當地支店長ハ本店ヨリノ命令ニ依リ滿洲國財政總長ニ對シ右書狀ニ通添附ノ上之カ回答振指圖受ケ度キ旨申出テ財政部當局ハ三日口頭ヲ以テ右ハ

滿洲國ヨリ執拗ニ強制セラレ如何トモ致シ難キ事情ニ立至

リタル結果ナル事ヲ回答シテ然ル可キ旨答ヘタル趣ナルカ

第一一二二八號（至急）  
往電第一一八九號ニ關シ

285 昭和7年10月7日 在中国有吉公使より  
内田外務大臣宛（電報）

満州海關接收前の稅收送金に我が方の好意表示は宋財政部長等との交渉上好都合との意見具申

本省 10月7日後着 上海 10月7日後發

支那側カ滿洲海關接收前ノ稅收ノ引渡シヲ重要視シ我方ノ斡旋ニ望ミテ囑シ居ルコトハ往電第一一六二號及南京發閣下宛電報第六七五號宋子文ノ口吻ニ依リ御承知ノ如ク此ノ點ニ關シ我方ヨリ相當ノ好意ヲ示スコトハ今後ニ於ケル宋子文等トノ接觸上好都合ナリト存セラル處宋部長ト明八

二拘ラス日本軍部カ債權者ニ歸屬スヘキ外債資金ヲ過去六ヶ月ニ亘リ差押ヘ居ルハ極メテ不公平ナリト述ヘタル趣ナリ

ノ問題（九月五日附機密公第二六四號等參照）モ本件同様二處理スルコト必要ト存セラルルニ付併而御考量ヲ請フ

内田外務大臣宛（電報）

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

払い停止との報道を宋財政部長否定について

満州塩稅收入の送金延滞のため九月分外債支

南京發

日朝會談ノ都合モアリ本件ニ關スル御意嚮何分ノ儀折返シ  
御回電ヲ請フ  
南京へ轉電セリ

286

昭和7年10月14日 在中國有吉公使より  
内田外務大臣宛(電報)

## 滿州海關接收以前の稅收送金につき宋財政部

## 長の督促要求について

上 海 10月14日後發  
本 省 10月15日前着

第一二四一號

貴電第四八一號ニ關シ

十四日宋子文ハ往訪ノ須磨ニ對シ日本人ノ關係シ居ル朝鮮銀行其他ニ於テ海關收入ヲ差押ヘ居ルハ事小問題ニ似タルモ日本人ノ信用ニモ關スル問題ニシテ將來由々數結果ヲ惹起スヘシ自分ハ曩ニ重光公使ヲ通シ大藏省ヨリ財政顧問ヲ招聘セントシタルコトアリ右希望ハ今尙有スル次第ナレハ日本側ニ於テモ日支關係ノ將來ヲ顧念セラレ稅收ヲ至急送金方御盡力相成度忌憚ナク申上クレハ日本ハ一体ニ小事ニ

拘泥シ過キル嫌アリ例へハ英國カ先年對英絕交ノ際巧妙ニ形勢ヲ挽回セル遣口(實利ハ實利トシテ掌中ニ收メ支那側ノ面子丈ケハ重ンスル等)ノ如キハ特ニ此ノ際日本側ノ考慮セラルヘキ點カト考ヘラル兎モ角支那側ニ於テモ出來得ル限り日本側ヲ「イリテート」セサル様努力(スヘシ)ト語レル趣ナリ

南京へ轉電セリ

287

昭和7年11月2日 林閩東序警務局長より  
有田外務次官他宛

新紙幣の普及狀況および滿州國政府の普及政策について

關機高支第一一二三三三號  
(11月7日接受)  
昭和七年十一月一日

關東廳警務局長  
拓務次官殿  
內閣書記官長殿  
外務次官殿  
內務省警保局長殿

關東廳警務局長

(11月7日接受)

288

昭和7年11月11日 在滿州國武藤大使より  
内田外務大臣宛(電報)

滿州國內示の旧東北政權債務整理案は到底容認不可能の旨回答について

本年七月一日滿洲中央銀行成立ト共ニ紙幣整理辦法ニ依り法律上滿洲國內ニ於ケル貨幣ハ完全ニ統一サレ中央銀行券即チ新國幣ノ流通ヲ見タルモ今尙日淺キ爲普及範圍小區域ニ限ラレ容易ニ舊紙幣ノ勢力範圍ヲ侵略スルニ至ラス現在國幣ノ流通範圍ハ都邑ニ限ラレ治安維持不完全ナル田舎方面ニハ未タ利用サルルニ至ラス其ノ勢力實ニ微タルモノナリ

茲ニ新京ニ於ケル新國幣ノ勢力ニ就テ見ルニ新國家官吏ノ俸給カ國幣ナル關係上市中ニ稍々流通スルヲ見ルモ其利用範圍ハ頗ル狹ク只商店ニ於ケル物品賣買ニ利用サルル程度ニテ商人間ノ大量ノ商取引及田舎人トノ取引(農產物ノ如キ)ハ從來流通ノ官帖、哈大洋票、鈔票等ニテ行ハレ容易ニ商習慣ヲ打破スル事不可能ナル狀態ニ在リ

然ルニ新國家ニ於テ十月一日吉長吉敦線ノ鐵道運賃ニ新國幣ヲ以テ受入レ一方鐵道從業員ノ給料等モ國幣ニテ支給スル等國幣ノ勢力伸張ニツキ銳意方策ヲ建テツツアル爲將來ニ於テハ總テノ舊紙幣ヲ經濟社會ヨリ驅逐スル事必然ナル

本年七月一日滿洲中央銀行成立ト共ニ紙幣整理辦法ニ依り法律上滿洲國內ニ於ケル貨幣ハ完全ニ統一サレ中央銀行券即チ新國幣ノ流通ヲ見タルモ今尙日淺キ爲普及範圍小區域ニ限ラレ容易ニ舊紙幣ノ勢力範圍ヲ侵略スルニ至ラス現在國幣ノ流通範圍ハ都邑ニ限ラレ治安維持不完全ナル田舎方面ニハ未タ利用サルルニ至ラス其ノ勢力實ニ微タルモノナリ

茲ニ新京ニ於ケル新國幣ノ勢力ニ就テ見ルニ新國家官吏ノ俸給カ國幣ナル關係上市中ニ稍々流通スルヲ見ルモ其利用範圍ハ頗ル狹ク只商店ニ於ケル物品賣買ニ利用サルル程度ニテ商人間ノ大量ノ商取引及田舎人トノ取引(農產物ノ如キ)ハ從來流通ノ官帖、哈大洋票、鈔票等ニテ行ハレ容易ニ商習慣ヲ打破スル事不可能ナル狀態ニ在リ

然ルニ新國家ニ於テ十月一日吉長吉敦線ノ鐵道運賃ニ新國幣ヲ以テ受入レ一方鐵道從業員ノ給料等モ國幣ニテ支給スル等國幣ノ勢力伸張ニツキ銳意方策ヲ建テツツアル爲將來ニ於テハ總テノ舊紙幣ヲ經濟社會ヨリ驅逐スル事必然ナル

モ地方治安維持サレ商習慣打破ニ至ルニハ今尙相當ノ年月ヲ要スルナラント云フ  
以上

288  
昭和7年11月11日 在滿州國武藤大使より  
内田外務大臣宛(電報)

滿州國內示の旧東北政權債務整理案は到底容認不可能の旨回答について

新 京 11月11日後發  
本 省 11月11日後着

第二七三號  
本官發奉天宛電報

第四號

滿洲國積缺善後案ハ十日ノ幹事會ニ於テ大體決定ヲ見近ク同案ニ基キ委員會ノ議ヲ纏ムルコトト成リタルヲ以テ當方ノ意嚮回示方申出アリタル處右ニ依レハ債權全部ニ亘リ一割乃至七割ノ削減ヲ加ヘ殊ニ物品未納ノ分ハ全額ヲ軍部關ニ對スルモノハ五割ヲ各削減セントスルモノニシテ我方債權ニ之ヲ適用スル時ハ辨債ヲ受クヘキ額甚夕暮少トナリ

三 满州国財政関係

|        |                   | 記 | 別 | 縣 | 通 | 化 | 桓 | 仁 | 通 | 額 | 摘 | 要 |
|--------|-------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|        |                   |   | 範 | 圍 |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 計      |                   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 備考     | 右ノ外隣接各地ニモ若干流通シアリト |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 右報告申進ス |                   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 本信寫送付先 | 大臣 奉天 新京          |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

幹事會決定ノ案ハ債權全額約七千八百万圓中官銀號中國、邊業、交通ノ諸銀行ニ對スル債權及交通機關ニ對スル債權ヲ別途處理スル事トシ殘額約一千二百八十三万圓（外國人ノ外滿洲人ヲモ含ム）ニ付支拂方法ヲ講セントスルモノナル處契約成立年度ニ依ル累進的削減、債權額ニ依ル累進的削減、納入先ニ依ル削減ノ三重ノ削減ヲ加フル結果滿洲國ニ於テ現實ニ支拂ヲ要スル額ハ恐ラク二百四五十萬圓ヲ出テサアルヘク然モ一口五千圓以上ノ債權二ノナルニ鑑ミ（例ヘハ民國十九年ニ成立セル軍機關ニ對

到底容認ノ限りニ非スト認メラレタル爲差當リ右ノ次第ト

共ニ該委員會ニ對シ當方ノ意嚮ヲ回示スル迄委員會ヲ開催

セサル様申聞ケ置キタルカ本件ニ付テハ直接債權者側ト協

議ノ爲十二日米澤ヲ貴地ニ出張セシムルニ付代表者團トノ

會見方然ルヘク御取計ヒアリ度シ

大臣ヘ轉電セリ

機密滿公第一〇八號

昭和七年十一月十一日

在安東 領事 岡本 一策

在滿洲國

特派全權大使 武藤 信義殿

唐聚五發行ノ軍票ニ關スル件

當地憲兵分隊長ヨリノ通報ニ依レハ曩ニ東邊道一帶ニ於テ暴威ヲ逞ウセシ自稱遼寧民衆自衛軍總司令唐聚五ハ假政府

建設以來資金ニ窮セシヲ以テ約六百萬元ノ軍票ヲ發行シ之ヲ通化ヲ中心トスル十二縣ノ地方民ニ強制通用セシメタル

為現在同方面ハ殆ト該軍票流通シ交易上多大ノ困難ヲ蒙リ居リ右ハ該方面一般人民ノ重要問題ナルヲ以テ奉天省當局

ニ於テモ之力對策ヲ攻究中ニテ大體唐聚五ノ現有私財約五十萬元並其ノ部下ノ逆產全部ヲ沒收シ其ノ他ノ不足額ヲ中央政府ニ於テ負擔回収スヘク立案中ナル由ニテ一方一般人

民モ新國家ニ於テ軍票ノ流通ニ關シ適當ノ辦法制定ヲ期待シ居ル趣ナリ

尙唐ノ發行セル軍票ノ各縣分布狀況ハ左記ノ如シ

289

昭和七年十一月十一日

在安東岡本（一策）領事より  
内田外務大臣宛

東邊道における唐聚五發行の軍票について

（11月15日接受）

機密第八六三號

昭和七年十一月十一日

在安東

領事 岡本 一策（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昭和七年十一月十一日附機密滿公第一〇八號

特派全權宛往信寫別紙茲ニ送付ス

件名

一、唐聚五發行ノ軍票ニ關スル件

290

昭和七年十一月十三日 在奉天森島總領事代理より  
内田外務大臣宛（電報）

旧東北政權債務整理問題は大橋外交部次長に

任せるべきとの意見具申

奉 天 11月13日後発

本 省 11月13日後着

<sup>(1)</sup> 第一三二一八號（至急、極秘）  
谷局長へ

一、全權發本官宛電報第四號ニ關シ

幹事會決定ノ案ハ債權全額約七千八百万圓中官銀號中國、邊業、交通ノ諸銀行ニ對スル債權及交通機關ニ對スル債權ヲ別途處理スル事トシ殘額約一千二百八十三万圓（外國人ノ外滿洲人ヲモ含ム）ニ付支拂方法ヲ講セントスルモノナル處契約成立年度ニ依ル累進的削減、債權額ニ依ル累進的削減、納入先ニ依ル削減ノ三重ノ削減ヲ加フル結果滿洲國ニ於テ現實ニ支拂ヲ要スル額ハ恐ラク二百四五十萬圓ヲ出テサアルヘク然モ一口五千圓以上ノ債權二ノナルニ鑑ミ（例ヘハ民國十九年ニ成立セル軍機關ニ對

スル債權ハ第一次ニ軍關係ニ對スル點ニ於テ五割ヲ第二次ニ年別ニ依リ三割ヲ削減セラル結果三万五千圓トナル處更ニ一万圓ヲ越ユル金額ニ對シテハ金額ニ依リ削減率五割ヲ適用セラル結果一万七千五百圓トナリ右ニ對シ三十ヶ年ノ長期公債ヲ受クル時ハ右公債ハ三四割ノ買値ヲ有スルニ過キサル爲僅ニ現今四五千圓ヲ受クルノ結果トナルヘシ事實上債權否認ト結果ニ於テ相去ル事遠カラス内外人關係者ノ容認セサルヘキハ勿論右案ニシテ滿洲國最終案トシテ列國ニ提示セラレンカ外國側ニ於テ滿洲國ハ從來幾多ノ聲明ヲ裏切ルモノトシテ不信ヲ買ヒ將來ニ於ケル外債借入等ニ支障ヲ招致スル惧レアルニ止マラス大局上ニ於ケル對外的不利大ナルハ推察ニ難カラス

<sup>(2)</sup> 二十二日本官歸任挨拶ノ爲外國領事ヲ往訪セル際ニ於テハ關係國領事ハ何レモ積缺問題ニ言及シ多大ノ關心ヲ有シ居ルモノト認メラレタルカ英國領事ノ如キハ本件債權問題ニ關シテハ英國議會ニ於テ質問アリタルニ拘ラス政府當局トシテハ具体的ニ回答シ得ル程度ニ立到リ居ラサル爲誠ニ苦シキ立場ニアリ在支公使ヨリモ本件成行ニ

現ニ日本官歸任挨拶ノ爲外國領事ヲ往訪セル際ニ於テハ關係國領事ハ何レモ積缺問題ニ言及シ多大ノ關心ヲ有シ居ルモノト認メラレタルカ英國領事ノ如キハ本件債權問題ニ關シテハ英國議會ニ於テ質問アリタルニ拘ラス政府當局トシテハ具体的ニ回答シ得ル程度ニ立到リ居ラサル爲誠ニ苦シキ立場ニアリ在支公使ヨリモ本件成行ニ

291 昭和7年11月19日 在牛莊荒川領事より  
内田外務大臣宛  
機密第八一〇號

營口過爐銀への總商會の不當政策について  
(11月26日接受)

昭和七年十一月十九日

在牛莊

領事 荒川 充雄 [印]

本信写送附先  
在滿全権大使 奉 天

大豆)買占ノ一手段トシテ案出セルモノト思料セラル、モ苟モ營口財界ノ公設機關タル總商會カ其公表セル過爐銀相場ヲ實行セサルノミナラス反面少數有力會員ニ於テノミニ之カ利益ヲ壟斷スルカ如キハ一種ノ詐欺的手段ナリト惡罵スルモノ少ナカラス其成行ニ對シ注意中ナリ

以上

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

過爐銀ニ對スル總商會ノ不當政策ニ關スル件

(總商會發表)之カ取引内容ヲ内査スルニ一般農民ハ過爐銀

公表定價三テール七ニテ穀物ヲ賣渡シ其ノ票ヲ總商會ニ持

参シ大洋ト取換ヘントスルモ總商會ニ於テ大洋ナシトノ

理由ニテ之ニ應セス已ムナク各商店ニ於テ交換スル有様ナ

ルカ此際定價以下ニ非ラサレハ引換ヲナサス爲ニ之ニ依ル

一般農民ノ損失大ナリト思料セラル猶之カ反面總商會ニ於

テハ主ナル會員ニ限り盛ニ過爐銀三テール七ノ定價ニテ大

洋ヲ賣渡シ居ル現状ナリト謂フ

要スルニ右ハ營口糧糧組合ニ於テ農作物(主トシテ高粱及

付再三問合セニ接シ居ル旨ヲ述へ本官ニ對シ側面的援助ヲ求メ居タル様ノ次第ナリ

三、然ル處滿洲國側ニ於テ前記ノ如キ幹事會案ノ決定ヲ見ルニ至リタルハ對外的關係ニ充分ノ考慮ヲ用ヒス破產財團清算ノ場合ニ於ケルカ如ク單ニ利用シ得ヘキ財源ヲ基礎トシテ手輕ニ整理案ヲ割出シタルニ過キサルヤニ察セラル處大橋次長ハ往電第一二一四八號會見ノ際債權額ノ五、六割ヲ現金ニテ一時ニ支拂ヒ右ニテ打切りトスルコトモ名案ナラスヤ等ト漏シ居タルニミナラス本官發全權宛電報第一四號(大臣宛電報第一二一八四號)ノ經緯ニ徵スルモ同次長ニ於テ本件ノ對外的重要性ニ鑑ミ多分ニ政治的考慮ヲ廻ラシツツアルコト疑ヒヲ容レス若シ同次長ニシテ新京ニアリタリトセハ前記決定案モ異リタル結論ニ到達シ居タリシコト推察ニ難カラサル處ニシテ本件今後ノ折衝ノ爲ニハ一面全權府ニ於テ軍側ト協力シ滿洲國側ニ當ルノ要アルハ勿論ナルモ他面大橋次長ノ識見並ニ手腕ニ待ツコト極メテ肝要ナリト認メラル右ニ御同意ナルニ於テハ至急大橋次長ニ然ルヘク御折衝相成様致度シ

292 昭和7年11月24日 林關東厅警務局長より  
有田外務次官他宛

中央銀行發行紙幣の価値高騰について

(11月29日接受)

昭和七年十一月廿四日

關東廳警務局長

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

内務省警保局長殿

### 三 滿州国財政關係

(欄外記入)

旧紙幣流通ハ新紙幣ニ対シ比價ヲ法定サレ且旧幣ノ發行禁絶  
サレタルカ為ナラム

293  
昭和7年11月26日

林關東廳警務局長上  
有田外務次官他宛

(12月1日接受)

關東廳警務司長

|     |     |     |     |    |
|-----|-----|-----|-----|----|
| 二四日 | 10月 | 10日 | 101 | ス  |
| 三日  | 10月 | 六日  | 10日 | 10 |
| 十四日 | 10月 | 10日 | 101 | 10 |
| 十五日 | 10月 | 10日 | 10日 | 10 |
| 十六日 | 10月 | 10日 | 10日 | 10 |
| 十七日 | 10月 | 10日 | 10日 | 10 |
| 十八日 | 10月 | 10日 | 10日 | 10 |

以上

ラル

拓務次官殿  
内閣書記官長殿  
外務次官殿  
内務省警保局長殿

東邊道ノ軍票處理方案

満洲國中央ニ於テハ自衛軍總司令唐聚五ニヨリ發行セラレ  
強制流通ノ軍票ノ處理ニ關シ内々腐心考慮セラレツツアリ  
シカ其ノ結果ニ關シ某要人ノ洩ス處ニ依レハ

一、滿洲國二於テ之ヲ國幣其ノ他ト引替ヲ為スコトハ現在ノ財政上不可能ナルノミナラス今後北滿其ノ他ニ於テ此ノ種ノ事件處理ノ惡例ヲ貽スコトナル

一、該軍票ヲ無効トスルトキハ善良ナル地方人民ノ經濟ニ大  
魯威ヲ與ヘ今後ノ統治上重大ナル支障ヲ來スヘシ

## 東辺道の軍票処理方案について

昭和七年十一月二十六日

昭和七年十一月二十六日

(12月1日接受)

キ結果ヲ来スヘシ

一、以上ニヨリ最善ナル方法トシテハ當分之が流通ヲ默認シ

滿洲國國幣發行以來ノ狀況

滿洲中央銀行カ本年七月一日開業新紙幣ヲ發行セルモ一時  
國幣ニ對スル一般民衆ノ信用薄ク舊紙幣ノ勢力ニ及ハサリ  
シ爲メ其ノ價值モ滿洲國政府ノ公定セル相場ヨリ低下シ頗  
ル寒心スヘキ狀態ニアリシカ滿洲國ノ建全ナル發展ニ伴ハ  
レ中央銀行ニ對スル信用モ漸次厚クナリ今ヤ南滿沿線ニ於  
ケル民衆ハ努メテ國幣ヲ使用スル氣運ニ向ヒツツアルモ地

發行當時ノ價值ヲ比較スレハ七月中鈔票百圓ハ金票八十圓十九錢現大洋百圓ハ金票七十五圓七十七錢國幣對金票ハ七十三圓五十七錢ニシテ國幣最モ安價ナリシカ九月以降漸次現大洋ト略同價值トナリ舊紙幣ノ回収ニ伴ヒ漸次其價值ハ昂騰シツツアリ七月以降ノ相場平均ヲ示セハ左ノ如クニシテ國幣ノ價值向上シ鈔票ヲ凌駕スルニ至レリ

|        |        |         |
|--------|--------|---------|
| 八月中    | 國幣     | 金票      |
| 國幣     | 國幣     | 一〇〇圓二對シ |
| 〃      | 〃      | 八十圓十九錢  |
| 八六圓二〇錢 | 九四圓八四錢 | 七五圓七七錢  |

記

九八圓四八錢

九八圓〇八錢

|     |    |    |    |
|-----|----|----|----|
| 九月中 | 鈔票 | 國幣 | 鈔票 |
| 十月中 | 鈔票 | 國幣 | 鈔票 |

十一月甲



六六二元ト決定シ右ニ對スル第一次現金拂金一八一、〇六  
八圓銀三六六、二八五圓ハ廿六日滿洲國ヨリ受領ノ上債權

者代表團ニ交付ヲ了セリ  
奉天へ轉電セリ

付 滿州國への諸外國投資問題

297

昭和7年4月12日

在長春田代領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

三井・岩崎両家の滿州國への借款供与に關し

大綱決定について

付記 三月二十四日、陸軍省作成

「滿洲國政府緊急所要資金借款ニ就テ」

長春 4月12日後発  
本省 4月12日後着

貴電合第九五四號ニ關シ

色部鮮銀理事七日來長新國家側ト會談ノ結果金額二千萬  
圓、利率五分、償還期限十ヶ年(二年据置)、擔保鹽稅剩餘  
(但債務不履行ノ場合ト雖擔保ニ手ヲ着クルコトナシ)等ノ  
大綱ヲ定メ昨十一日當地發東京ニ向ヒタルカ内地ニ於ケル  
話ヲ纏メタル上再ヒ來長ノ豫定ナル趣ナリ

支、奉天へ轉電セリ

(付記)

七、三、二四

滿洲國政府緊急所要資金借款ニ就テ 陸軍省

一、緊急借款ノ必要並借款額

滿洲國成立直後ニ必要ナル臨時費並ニ經常費(歲入歲出  
ノ均衡ヲ得ル迄ノ間ニ於ケル補足財源)トシテ該政府ノ  
緊急必要トスル額ハ現大洋四千萬元ニシテ其内譯左ノ如  
シ

(1)緊急必要トスル臨時費

イ、舊政府官吏整理費 四、〇〇〇、〇〇〇元  
ロ、建國準備ニ要シタル諸費 九五〇、〇〇〇元

ハ、緊急支拂ノ要アル未拂金ニ對スル引當金  
五、〇〇〇、〇〇〇元

二、軍事費(滿洲國現有軍備ニ要スル半年分)  
一五、〇〇〇、〇〇〇元

(2)經常費不足額 一一、八五〇、〇〇〇元

(3)豫備費 一二、〇〇〇、〇〇〇元  
四〇、〇〇〇、〇〇〇元

右四千萬元ハ新中央銀行ノ銀行券發行ニ求ムルノ外ナク